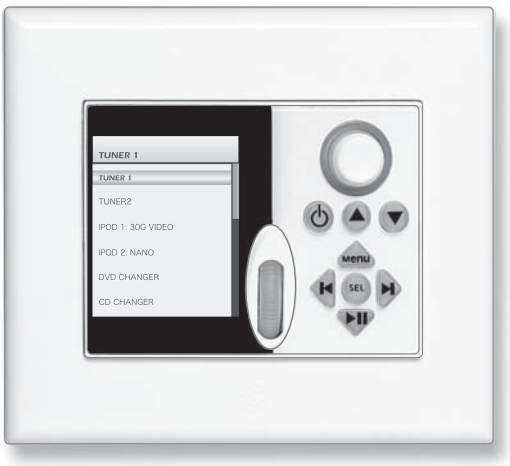
MODE KEYPAD 3.1

キーパッド

取扱説明書



SpeakerCraft®

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
・本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
・本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
・テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
・本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

オーディオ機器の正しい使いかた

■ 水のかかるところに置かない

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、 やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れる前に音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因になることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

オーディオ機器の正しい使いかた

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

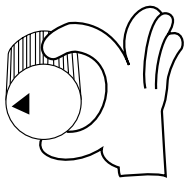
●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



目次

オーディオ機器の正しい使いかた 2
はじめに 7
本機の特長 7
付属品を確認する 7
各部の名称と働き 8
フロントパネル 8
リアパネル 9
MODE（モード） ADAPTER（アダプター） 10
MODE（モード） BASE（ベース） 11
配線（事前配線）について 13
キーボタンの交換 15
MODE コンポーネントの設置 16
ヘッドエンド 16
接続する 19
ヘッドエンド 19
EZ-Tools によるプログラミング 23
EZ-Tools のダウンロード 23
クイックスタートガイド 23
iPod、MODE（モード） BASE（ベース）、および MODE（モード） ADAPTER（アダプター） を既存プロジェクトに追加する 24
KEYPAD（キーパッド） 3.1 を既存のプロジェクトへ追加する 27
ソースコントロールのプログラミング 31
ハードキーのプログラミング 31
仮想ボタンのプログラミング 31
KEYPAD（キーパッド） 3.1 の操作 33
電源を入れる 33
電源を切る 33
ソースの選択 33
音量の調節選択 33
ミュート 33
ソースに関する操作 34
ゾーンの設定（高音および低音）関する操作 35
キーパッドの設定 35
キーパッドのリセット 35
仕様 36

はじめに

本機の特長

●MODEはMusic On Demand Experienceの頭文字を取った名前です。SpeakerCraft MODE KEYPAD 3.1は、3.1インチ縦型高解像度カラーLCDを搭載し、システム状態をリアルタイムで表示するほか、メニューからコントロールオプションやソースメタデータを選択できるようにした究極のメディアコントロールエクスペリエンスを実現します。メニューオプションには、システムソースの選択、iPodメニュー、メタデータのほか、様々なキーパッド設定オプションなどが含まれています。

●KEYPAD 3.1は、操作性の容易なことが大きな特長です。便利なスクロールホイールと選択ボタンを使用し、表示されたメニューオプション間を自由に行き来して選択することができます。ソースを選択したなら、プログラム可能な8個のバックライト付きハードキーボタンを押して、DVDプレーヤー、メディアサーバー、サテライトレシーバー、ケーブルボックスなどのソースをコントロールしたり、画面上のメニューを選択したりすることができます。プログラム機能はSpeakerCraftのキーパッドに求められる要件ですが、どのボタンにもその機能が備わっています。それぞれのボタンは、最大で3パターンの赤外線コマンド、RS232コマンド、SpeakerCraft MZC内部コマンド、およびマクロを一度に送信できるようになっています。

●ボリュームコントロールは、バックライト付きのコントロールノブを回して行い、設定した音量に応じてLEDが点灯・消灯するようになっています。

●KEYPAD 3.1は、特にSpeakerCraft MZCシリーズマルチゾーンA/Vアンプコントローラー向けに設計されています。同シリーズのコントローラーは、SpeakerCraft EZ-Padキーパッドとともに使用でき、同じCAT5またはEZ-Pad向けの5本導線ワイヤーで動作します。KEYPAD 3.1には配線ボックスの取り付けブラケットが付属しており、標準的な2連低電圧新構造や後から取り付けるタイプの電気ボックスに取り付けることができます。このような設計理念により、ユーザーがiPodやメディアサーバーを組み込む際に、MODEキーパッドを取り付けることで既存のMZCシステムをアップグレードすることができます。

●このマニュアルでは、iPodや追加のソースを組み込むためのSpeakerCraft MODE ADAPTERおよびMODE BASEについても説明しますが、KEYPAD 3.1の設置および操作にそのようなコンポーネントが必ずしも必要なわけではありません。MODE ADAPTERおよびMODE BASEがなくてもKEYPAD 3.1は設置でき、MZCシステムのEZ-Padを単にアップグレードするものとして使用することができます。

●KEYPAD 3.1は、SpeakerCraftのEZ-Toolsプログラミングソフトウェアを使用してプログラムされており、EZ-Padキーパッドと同様の手順に従っています。これまでにEZ-Toolsに保存されているMZCシステムコマンド、IRライブラリーコマンド、およびRS232コマンドはどれもみな使用できますので、Music On Demand Experienceの名にふさわしいプログラミングをKEYPAD 3.1に与えてください。

付属品を確認する

KEYPAD 3.1

KEYPAD 3.1…（1）
KEYPAD 3.1取り付けブラケット…（1）
KEYPAD 3.1用化粧プレート…（1）
交換用キーボタン…（1）
ワイヤー固定具…（1）
クイックリファレンスガイド…（1）

MODE ADAPTER

MODE ADAPTER…（1）
φ3.5mmステレオミニジャック－RCA接続ケーブル…（1）
クイックリファレンスガイド…（1）

MODE BASE

MODE BASE…（1）
iPod用差し込み…（7）
クイックリファレンスガイド…（1）

アクセサリーおよび別売品（非付属品）

MODE ADAPTER用PSJ-3.0 24V DC電源…（1）

（1個のPSJ-3.0で最大6個まで連結したMODE ADAPTERを給電可能）

必要工具

・穴開加工工具
・ねじ回し用ドライバー
・ワイヤーカッター

各部の名称と働き

フロントパネル

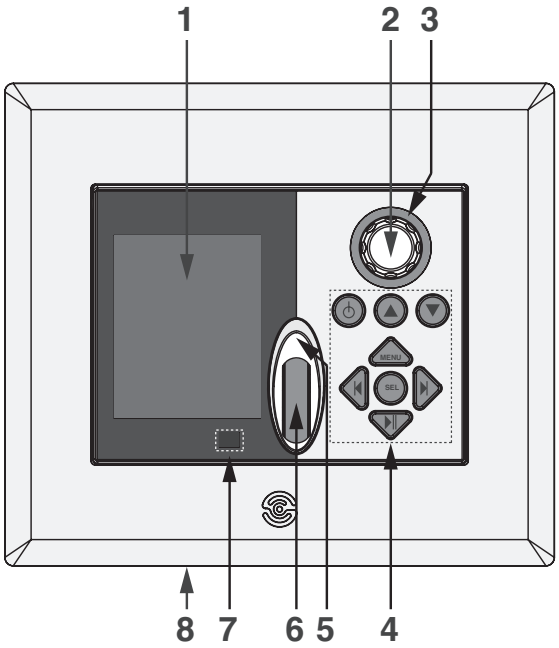


図1 KEYPAD 3.1フロントパネル

① **3.1インチ高解像度カラー LCDディスプレイ**
高解像度のカラー LCDには、ソース選択、メニューナビゲーション、コントロール、iPodからのメタデータ、プリセット、およびMODE設定メニューを操作するための「バーチャルボタン」が表示されます。

② **ボリュームコントロールノブ**
ボリュームコントロールノブを回すと音量の調整、押すとローカルゾーンスピーカーのミュート、5秒間押し続けるとキーパッドの設定をリセットします。ノブにはどのような機能でも割り当てることができますが、通常はボリュームとミュート機能を割り当てます。

③ **ボリュームレベルLED**
8個の青色LEDが付いていて、音量設定を目で見て確認することができます。

④ **設定変更可能なハードキー**
プログラムや設定の変更が可能な7個のバックライト付きハードキーで、共通のソースコンポーネントをコントロールします。各キーのプログラムはSpeakerCraftのEZ-Toolsプログラミングソフトウェアを使用して行い、IRコマンド、IRマクロ、RS232コマンド、およびMZC内部コマンドを一度に送信することができます。キーごとに3段階の機能を付与できるため、システムコンフィギュレーションやユーザーの必要に応じてプログラミングの選択肢が広がります。また、各キーパッドにはさらに柔軟性を増すための交換用キーボタンも同梱されています。

ご注意
MENUボタンのプログラム設定、変更はできません。このボタンは、iPod以外のソースの使用時にはボタンを押すことによりメインメニューの表示へ戻ります。iPodの選択時にはiPodメニュー表示と同じ働きをします。iPodを選択時メニューボタンを長押しするとメインメニューに戻ります。

⑤ **クリックボタン**
ソースやメニュー項目を選択するキーです。このボタンのプログラムの設定、変更はできません。

⑥ **スクロールホイール**
LCDディスプレイ上に表示されているカーソルを上下に移動させます。このボタンへのプログラム設定、変更は出来ません。

⑦ **IRセンサー**
MODE KEYPAD 3.1はSpeakerCraftの専用ANS（Ambient Noise Suppressor：周辺ノイズサプレッサー）を内蔵しています。赤外線受信部は、システムのリモートコントローラーや赤外線制御ソースコンポーネントに対応しています。

⑧ **KEYPAD 3.1用化粧プレート**
KEYPAD 3.1用化粧プレートはしなやかな素材でできたネジのないプレートで、周囲の壁などにしっくりとけ込みます。ベゼルの背面には形状がぴったりと合うタブが付いており、滑り込ませることによってKEYPAD 3.1取り付けブラケットにすっきりフィットするようになっています。

リアパネル

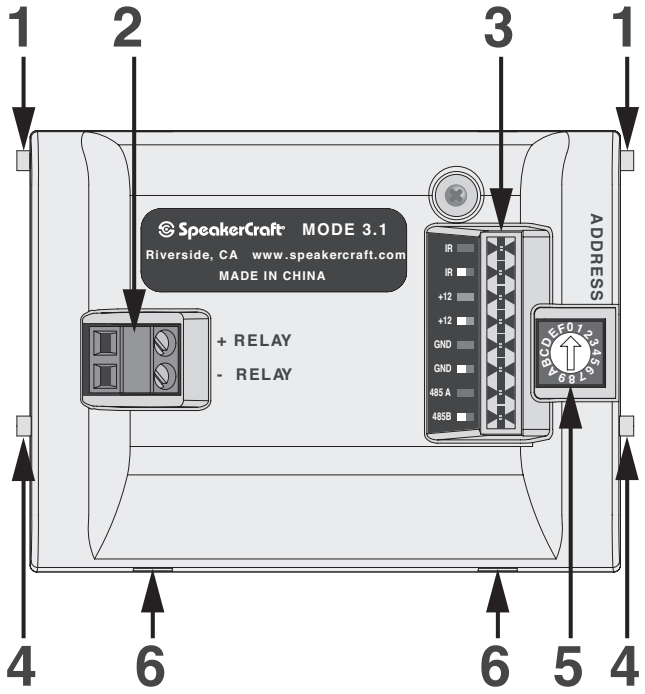


図2 KEYPAD（キーパッド） 3.1リアパネル

① **キーパッドロックタブ**
取り付けブラケットタブ穴の上側にはまり、キーパッドをブラケットにしっかりと固定します。

② **スピーカーリレーミュート端子**
SpeakerCraft EPR-1.0リレーミューティングモジュールに接続し、サブゾーン拡張用のマルチチャンネルアンプの使用時に、各部屋を個別にミューティングすることができます。

この機能は2006.11月末現在対応していません。

③ **キーパッドパンチダウンブロック**
110スタイルのパンチダウン式端子で、ここからSpeakerCraft MZC-66のゾーンキーパッド端子に接続されます。

④ **キーパッドアングルタブ**
取り付けブラケットタブ穴の下側にはまり、キーパッドを壁面に隙間なくぴったり取り付けたり、下側を15°ほど傾けて取り付けたりすることができます。角度をつけることで見映えがよくなり、また、LCDの見え方を改善することができます。

⑤ **アドレススイッチ**
1つのゾーン内で共通バスに接続する場合には、16個あるアドレスの中からMODEキーパッドごとに固有のアドレスを設定する必要があります。ゾーンツーゾーン（ゾーンごとに1つのキーパッド）の場合は、固有アドレスは不要です。スイッチには0からFまで、全部で 16個のアドレスが用意されています。

⑥ **フェースプレートリリースタブ**
キーを交換する場合は、この埋め込みタブを注意しながら押し下げて、MODEフェースプレートをはずします。MODE本体からフェースプレートがはずれるようになっています。

MODE ADAPTER

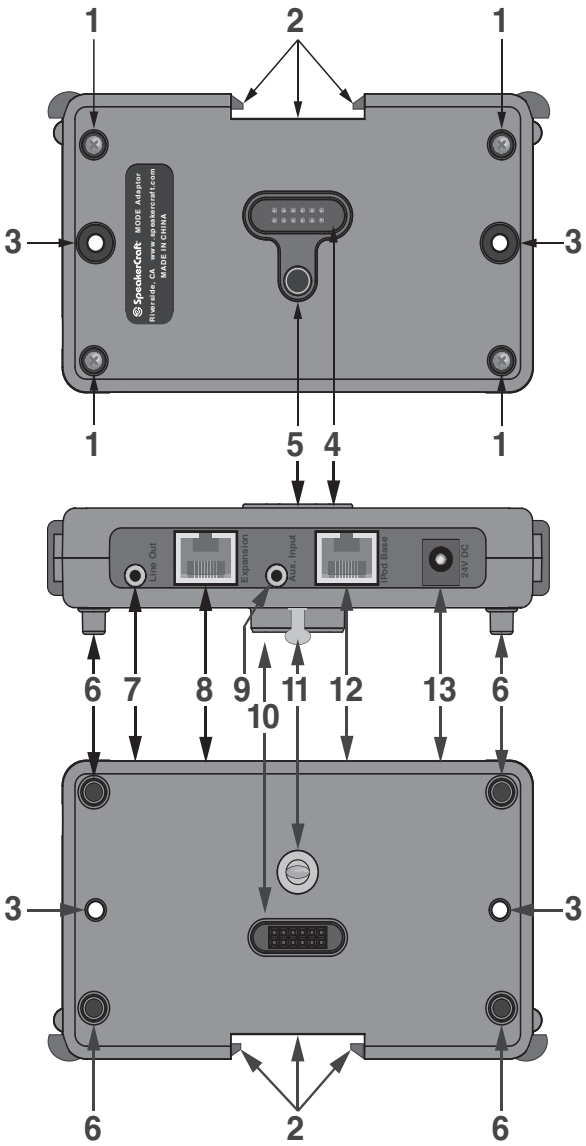


図3　MODE ADAPTER

① **アダプター支柱ソケット**
アダプターの支柱を調整するための埋め込みソケットが4本あり、数台のアダプターを固定し、アダプターバスピンが損傷しないように防ぎます。

② **DINレールソケットおよびクリップ**
標準のDINレール（別売）を使用して、MODE ADAPTERを壁に取り付けられるようにします。赤いクリップがレール部にスライドして、アダプターをしっかり固定します。連結されたアダプターもDINレールに取り付けることができます。

③ **壁面取り付け用ネジ穴**
MODE ADAPTERを壁面やキャビネットに平らに取り付けることができます。

④ **12ピンコネクター**
複数台のMODE ADAPTERを使用する際に他のアダプターの底面の12ピンソケットと接続することにより、電源、メタデータ、およびコントロールバスが確保され、複数台のMODE ADAPTERを連結することができます。

⑤ **ロックピンスロット**
アダプター上面の丸い開口部で、数台のアダプターを連結する際にロックピンを挿入してロックします。

⑥ **アダプター支柱**
アダプターの底面にある4本の円形支柱で、1台のアダプターを使用する場合には12ピンコネクターを保護し、数台のアダプターを連結する場合にはアダプター支柱ソケットにはめ込んでアダプターを固定し、コネクターが損傷しないように保護します。

⑦ **LINE OUT**
φ3.5mmミニジャックステレオライン出力。付属のφ3.5mmステレオミニジャック−RCA（3m）ケーブルを使用してMZC66のソース入力に接続します。複数台のMODE ADAPTERを連結する場合は、各々付属のケーブルを使用して接続する必要があります。

⑧ **EXPANSIONポート**
RJ45ジャックを使用してMZCのリアパネルと接続し、MZCとMODE ADAPTER間でコントロール信号やメタデータの送受信を行います。

⑨ **AUX INPUT端子**
外部からのオーディオラインをφ3.5mmステレオミニジャックで介し接続することにより、MZC-66では最大12ソース入力することが出来ます。この入力に接続されたソースの切り替えやコントロールはあらかじめ設定する必要があります。また、これらへ接続した装置のアクセスやコントロールはKEYPAD 3.1のみで通常のEZ-Padではアクセスやコントロールは出来ません。

⑩ **12ピンソケット**
12ピンのソケットで、連結されたアダプターの上面にある12ピンコネクターに接続します。接続することで、電源、メタデータ、およびコントロールのバスが確立され、数台のMODE ADAPTERを連結することができます。

⑪ **ロックピン**
アダプター底面の金属製支柱で、アダプターを連結する場合にロックピンスロットにはめ込みます。普通サイズのマイナスドライバーを使用して支柱を回し、連結されたアダプター同士をロックします。

⑫ **iPodBaseポート**
CAT5ケーブルを使用してRJ45端子でMODE BASEのAdapter Portへ接続します。接続することによりMODE BASE/iPodに電源とコントロールを供給し、iPodからはデジタルオーディオとメタデータを受信できるようになります。

⑬ **24V DC**
PSJ-3.0（別売）から24V DCを供給します。MODE ADAPTERを連結する場合は、1個のPSJ-3.0でMODE ADAPTER最大6個まで供給可能です。

MODE BASE

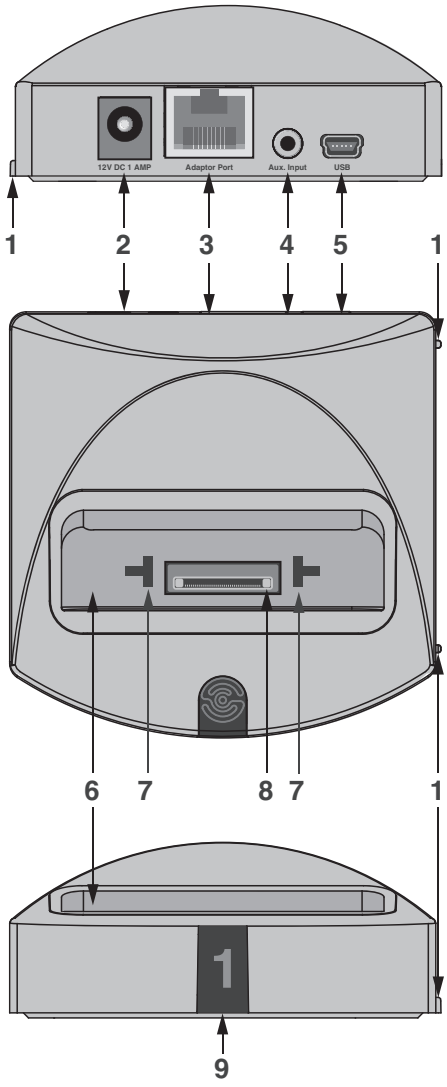


図4　MODE BASE

① **Base連結用タブ**
複数台のBaseを使用する際に、右側にある2個の小さなタブと他のBaseの左側のくぼみにはめ込むことにより、連結することが可能です。Baseの側面は磁気を帯びているためしっかりとロックします。

> **ご注意**
> MODE BASEの磁石はかなり強力ですので、CRTやプラズマディスプレイに直接または近くに取り付けないでください。オーディオテープ、ビデオテープ、クレジットカードなどの磁気媒体を近づけると、内容が消失するおそれがありますので注意してください。

② **12V DC**
BaseとAdapter間が76m未満の場合は、MODE ADAPTERから十分な電源容量を確保できるため使用いたしません。配線が76mを超える場合は、別途電源供給をする必要性があります。別売りPSJ－1.0（12VDC 200mA）を使用すれば最大88mまで離すことが出来ます。

③ **アダプターポート**
CAT5ケーブルを使用してRJ45端子でMODE ADAPTERのiPod Baseへ接続します。接続することによりMODE BASE/iPodに電源とコントロールを供給し、デジタルオーディオとメタデータをベースからアダプターに送信できるようになります。

④ **AUX INPUT端子**
外部からのオーディオラインをφ3.5mmステレオミニジャックで介し接続することにより、MZC-66では最大12ソース入力することが出来ます。この入力に接続されたソースの切り替えやコントロールはあらかじめ設定する必要があります。また、これらへ接続した装置のアクセスやコントロールはKEYPAD 3.1のみで通常のEZ-Padではアクセスやコントロールは出来ません。

⑤ **USBポート**
USBミニBジャックで直接PCと接続することにより、MODE BASEに装着したiPodにコンテンツのダウンロードすることが出来ます。コンテンツのダウンロードは通常の手順に従って行います。詳細はiPodの説明書をご覧ください。

⑥ **iPodドックアダプター**
ここにiPodを装着されます。異なったサイズのiPodドックアダプターが付属していますので様々なモデルのiPod装着可能です。

ご注意
お持ちのiPodに合ったiPodドックアダプターがない場合はベースドックにiPodを装着しないでください。その場合iPodは正しく装着できず、iPodだけでなくMODE BASEも損傷する恐れがあります。

⑦ **iPodドックアダプター固定スロット**
iPodドックアダプターの底面についているT型支柱がこのスロットにスライドしてはまり、使用するiPodドックアダプターが固定されます。iPodドックアダプターのサイズを変更する場合はMODE BASEの底面からT型支柱を慎重に押し込み、装着されているiPodドックアダプターを引き抜きます。

⑧ **iPodコネクター**
このマルチピンコネクターで、iPodの底面にあるiPodドックコネクターに接続します。iPodを慎重にこのコネクターに押し入れます。接続すると、電源とコントロールがiPodに送信され、iPodからはデジタルオーディオとメタデータがシステムに送信されるようになります。

⑨ **MZCソースインジケーター**
青いLEDディスプレイで、現在使用中のMODE BASEへMZCソース入力を表示します。iPodは部屋から部屋へ持ち運ぶことができ、システムはiPodがどの部屋で装着されているかを識別します。ベースは、特定のMZCソース入力に割り当てられます。ソースインジケーターは、ベースの底面にあるソースIDボタンを押して、MZCソース入力と一致するように設定します。

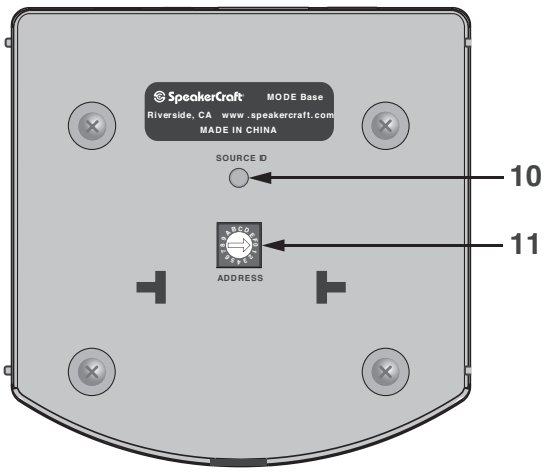


図5 MODE（モード） BASE（ベース）底面

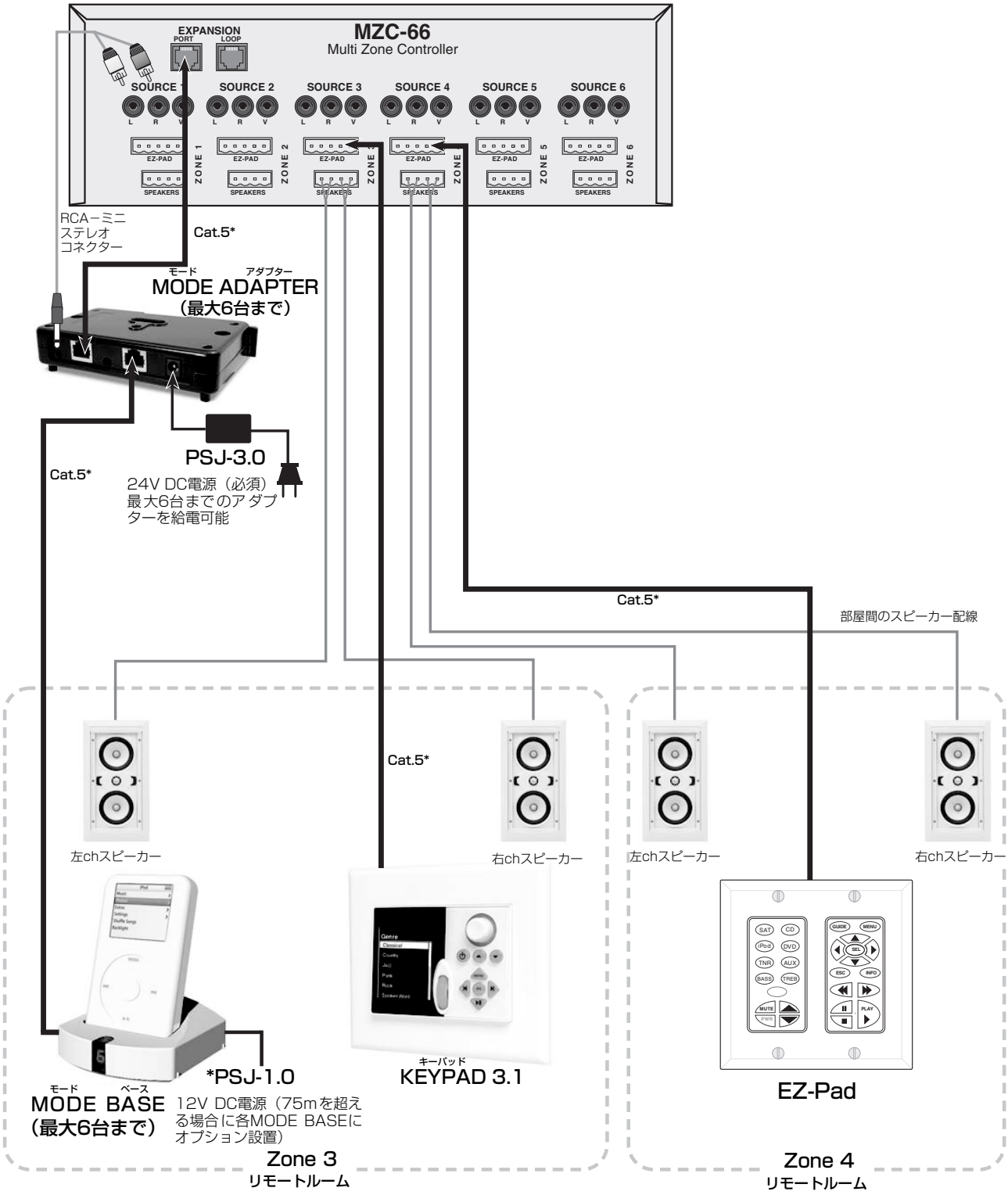
⑩ **ソースID切換スイッチ**
鉛筆や絶縁性の先の尖ったもので慎重に押し、接続中のMZCソース入力番号と青いLEDディスプレイの表示を設定します。

⑪ **アドレススイッチ**
16個あるアドレスの中から、特定のシステム中のMODE（モード）BASE（ベース）ごとに固有のアドレスを設定する必要があります。スイッチには0からFまで、全部で 16個のアドレスが用意されています。

静電気に関する重要な通知

MODE（モード） BASE（ベース）は静電気放電の影響を受けやすくなっています。条件によっては、ベースや装着されているiPodに手を差し伸べただけで、触れる前に一定レベルの静電気放電が生じ、MODE（モード） BASE（ベース）とMZC間の通信リンクが一時的に弱まることがあります。通信を回復して正常動作に復帰させるために特にユーザーがしなければならないことはありません。この通知はMODE（モード）BASE（ベース）だけに当てはまるものです。iPodと静電気放電に関する詳細は、iPodの説明書を参照するか、アップル社にお問い合わせください。

配線（事前配線）について



* このマニュアルの関係箇所をご覧ください

図6　一般的なシステム

KEYPAD 3.1はMZC-66と接続しなければ動作しません。MZCシステムを導入する際は別冊MZC-66設置説明書を読みあらかじめ配線を行ってください。以下に示す情報は、KEYPAD 3.1、MODE ADAPTER、MODE BASEを接続するためのものです。

ご注意

以下に述べる配線は、システムの事前配線時に実施してください。そのほかの接続は設置時に行います。説明は**「接続する」**の箇所にあります（19ページ）。

KEYPAD 3.1

■ コントロール

CAT5 – CAT5ケーブルはそれぞれのKEYPAD 3.1を取り付ける位置からMZCシステムを設置する位置へ配線します。**最大長：152m**

ご注意

適切な信号強度を保つためにはCAT5の8本の線すべて接続する必要性があります。

MODE ADAPTER

■ Expansionポート

CAT5ケーブルをMZCの設置位置からMODE ADAPTERの設置位置へ配線します。もしMODE ADAPTERの設置する位置がMZCと同じところへ設置する場合はシステム設置のときに接続可能となります。MODE ADAPTERがMZCと離れた場所へ設置する場合は事前配線が必要となります。**最大長：30m**

ご注意

MODE ADAPTERを複数台使用する場合も、MODE ADAPTERとMZCの間は1本のCAT5ケーブルで接続されます。詳細は、**「接続する/**MODE ADAPTER**（連結）」**の説明箇所をご覧ください。（20ページ）

■ iPod Base

CAT5ケーブルをMODE ADAPTERの設置をする位置からMODE BASEの設置する位置まで配線をします。もしMODE ADAPTERの設置する位置がMODE BASEと同じところへ設置する場合はシステム設置のときに接続可能となります。MODE ADAPTERがMODE BASEと離れた場所へ設置する場合は事前配線が必要となります。**最大長：76m** MODE BASEへPSJ－1.0（別売）で電源供給する場合は**最大長88m**

MODE BASE

■ 12V DC 1A

平行線 – 12V DCを壁板越しからMODE BASEへ供給する場合は、P10の**図6**で示すように16AWG2芯撚線未シールドでPSJ-1.0と接続しMODE BASEの設置位置まで配線します。**最大長16AWGで152m。**

■ Adapter Port

CAT5ケーブルをMODE BASEの設置をする位置からMODE ADAPTERの設置する位置まで配線をします。もしMODE BASEの設置する位置がMODE ADAPTERと同じところへ設置する場合はシステム設置のときに接続可能となります。MODE BASEがMODE ADAPTERと離れた場所へ設置する場合は事前配線が必要となります。**最大長：76m** MODE BASEへPSJ－1.0（別売）で電源供給する場合は**最大長88m。**

キーボタンの交換

KEYPAD（キーパッド） 3.1のキーボタンは、付属の交換用キーボタンを使いシステムに合わせカスタマイズすることが出来ます。キーボタンの交換方法は以下の手順に従って行ってください。

図7　フェースプレートリリースタブ

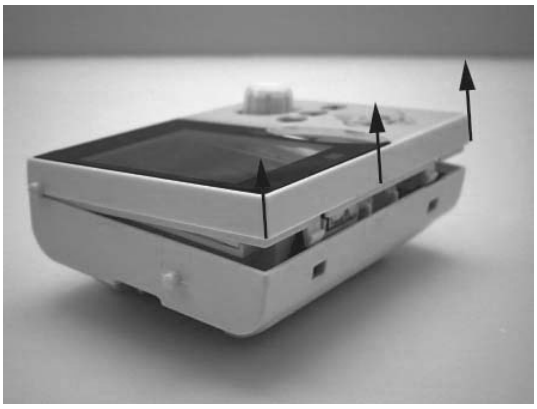


図8　フェースプレートの取りはずし

図9　キーボタンの交換

1	**本体の図7のフェースプレートリリースタブ穴1へ小型のマイナスドライバーを慎重に差し込みます。** 差し込んだドライバーの先をゆっくりとひねり上げるとフェースプレートタブが本体から外れます。2の方向へドライバーを引き抜いてください。
2	**タブが両方ともはずれたら、図8のように、フェースプレートの底を、キーパッドからはずれて動かなくなるところまで慎重に持ち上げます。** フェースプレートの上面を慎重に持ち上げてはずし、キーパッドから分離させます。LCDの上部に接続されたフレックス基盤回路に触れたり、はさんだり、つついたりしないようにしてください。フレックス基盤を傷つけると、LCDが機能しなくなります。
3	**フェースプレートが完全にはずれたら、キーボタンを交換することができます。** キーボタンの上部を慎重につまみゆっくりと持ち上げ、ゴムシートよりキーボタンをはずします（**図9**参照）。この場合ゴムシートは回路基板よりはずれないようにします。ゴムシートがはずれた場合は、回路基板の上に平らにし元の位置へ戻してください。ゴムシートが正しく収まってない場合はキーパッドが正しく動作しません。
4	**付属の交換用キーボタンをシステムにあわせ交換します。**
5	**キーボタンが交換終了しゴムシートへ正しく収まりましたら、手順2の逆手順でフェースプレートを元に戻します。** フェースプレートの上部タブとキーパッドを噛み合わせます（**図8**参照）。フェースプレートの下部を各キーボタンが開口部より出るまでゆっくり押し下げます。キーボタンが開口部の真ん中にあることを確認し、その位置を保ったままフェースプレートの下部を押しタブをロックさせます。
6	**それぞれのボタンを押してみて、引っかからずに動くかどうかを確認します。**

MODEコンポーネントの設置

MODEコンポーネントの設置は、わずかな手順で簡単に行うことができます。

ヘッドエンド

MODE ADAPTER

MODE ADAPTERは小型のプラスチックボックスです。棚に置いたままでも使用可能ですが、動いてケーブルがはずれたりして装置を損傷する場合がありますので、棚、壁面、DINレールなどに固定することをお勧めいたします。

■ 壁面への取り付け

MODE ADAPTER、本体シャーシの上部にある壁面取り付けネジ穴を利用して直接壁面に取り付けることが出来ます。SpeakerCraftのラベルが手前になるよう取り付けます。

1	**取り付ける場所に本体を配置します。**
2	**配置した本体のネジ穴から壁に向かい慎重にドリルで取付け用下穴を開けます。**
3	**首下40mm以上のネジで本体を固定します。** ネジを締めすぎると本体が破損する場合があります。ネジをあまり締めすぎないよう気をつけてください。
4	**複数台使用する場合は、接続したソース番号を記載したラベル等を本体に貼り付けておくと、接続や不具合が生じた場合に容易に確認できます。**

■ 棚への取り付け

上記壁面への取り付けに準拠します。本体を設置する場合は、SpeakerCraftのラベルが上になるよう棚に置き、接続パネル面が手前になるよう設置すると結線が容易に行えます。複数台使用する場合は、接続したソース番号を記載したラベル等を本体に貼り付けておくと、接続や不具合が生じた場合に容易に確認できます。

■ DINレール

MODE ADAPTERは、市販の35mm DIN規格レールを使用して壁面に取付け可能です。(DINレールは電器部材販売店等で購入できます。)

レール部は取付けるMODE ADAPTERの数に見合った十分な長さになるようにして下さい。1つのADAPTERに必要なレールの長さは最低3inch(76.2mm)6台で約10～12inch(254mm～304.8mm)必要となります。

1	**「U」型チャンネルの平らな面を壁側にくるようDINレールを取付けます。** レールは壁面のスタッド等を利用し補強を十分に取って取り付けてください。
2	**レール取付け用の下穴を慎重に開けます。**
3	**首下1inch(25.4mm) 以上の長さのネジでDINレールを壁面に固定します。**
4	**MODE ADAPTERをDINレールにスライドさせ、本体のDINレールクリップでレールに固定します。** 数台のアダプターをDINレールに取り付ける場合は、アダプターを1つずつレールにスライドさせるようにお勧めします。(一度に1つずつスライドさせる方が簡単にできます。)
5	**それぞれのアダプター同士を12ピンのコネクターで接続します。** ロックピンでそれぞれのアダプター同士を固定します。
6	**複数台使用する場合は、接続したソース番号を記載したラベル等を本体に貼り付けておくと、接続や不具合が生じた場合に容易に確認できます。**

MODE BASE

iPodを入力ソースとして接続する場合、その他入力ソース同様にMODE BASEを置いて設置することができます。BASE本体は磁気を帯びているため、お互いにくっつき安定固定しているため特別な取付けは不要です。

ご注意

MODE BASEは磁気を帯びていますので、CRTやプラズマディスプレイの上部に直接置いたり、それらの付近へ設置したりしないでください。ディスプレイの故障の原因となります。また、オーディオテープ、ビデオテープ、クレジットカードを近づけないでください。記録されている情報を消去してしまう場合があります。

KEYPAD 3.1

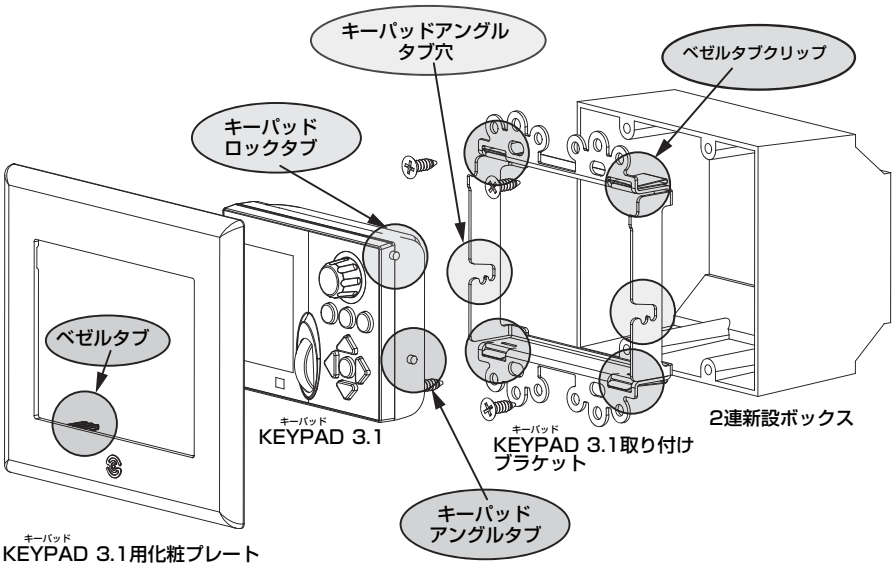


図10　KEYPAD 3.1の取り付け

■ バックボックス

ご参考：

KEYPAD 3.1は、中心の高さが56インチ（1.42m）になるように設置することを是非お勧めします。そうすることで、全体的なLCDの視認角度が最適になります。この点は家主と事前に話し合っておき、設置後にやり直しをしなくても済むようにします。

■ 新設

KEYPAD 3.1を取り付ける際は、市販の2連BOXをご使用になることをお勧いたします。BOX寸法は**ベゼルタブ**や**ベゼルタブクリップ**の為の空間が必要となります。BOXのタイプによっては取付けの空間が十分取れないものがあります。取付ける前に必ず寸法を確認してください。

■ 後付け

後付ボックスを使用する場合は、ある程度使用制限されます。後付ボックスの場合、ボックスの一部を削り取付けブラケットのベゼルタブクリップとベゼルクリップのスペースを確保しなければなりません。クリップやタブを変更すると、化粧プレートを取り付けたとき不安定になります。

■ 取付けブラケット

KEYPAD 3.1は、取付けブラケットなしでは取り付けができません。キーパッドは、**キーパッドロックタブ**と**キーパッドアングルタブ**を使用して保持します。取付けブラケットは、**図10**のように、標準の2連新設ボックスに取り付けてください。取付けブラケットを取り付ける場合は、ブラケットが**図10**に示す位置にくるようにしてください。ブラケットの上下が逆さまになっていると、キーパッドの取り付けができません。後付けボックスを使用する場合は、上記の「後付けボックス」の説明をご覧ください。

お勧めはできませんが、やむを得ない場合、取り付けブラケットをJ-ボックスなしで使用することもできます。J-ボックスなしでキーパッドを取り付ける場合、長期の使用に絶えられるように、乾式壁用留め具を使用してブラケットをしっかり固定してください。

■ KEYPAD 3.1

取付けブラケットを取り付けたら、MODE 3.1を取り付けることができます。（キーパッドを取り付ける前に、「接続する」の箇所で説明されているとおりに配線を行ってください。）（19ページ）

■ Keypadの角度調整

KEYPAD 3.1の取付けは2段階で角度調整が可能です。壁面と同一方向の角度と、上方向へ15度傾けることができます。見栄えを良くしたり、LCDの見え方を改善したりすることができます。

■ 壁面へと同一方向の角度の取付け

KEYPAD 3.1の取付け面が壁と同一方向なるよう設置するためには以下のように行います。

1. KEYPAD本体の**キーパッドアングルタブ**を取付けブラケットの奥側の受け側に乗せます。
2. 取付けブラケットの角にKEYPAD本体のキーパッドロックタブがしっかりとはまり込むまで両手の親指で慎重に押さえます。

■ 傾斜型の取り付け

KEYPAD 3.1の取付け面が上方向15度傾け設置する場合は下記の手順で行います。

1. KEYPAD本体の**キーパッドアングルタブ**を取付けブラケットの手前の受け側に乗せます。
2. 取付けブラケットの角にKEYPAD本体の**キーパッドロックタブ**がしっかりとはまり込むまで両手の親指で慎重に押さえます。

ご注意

傾斜型の取付けではKEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートを取り付けるまでは完全に固定されません。KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートで本体を取付けブラケットに押え固定します。KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートを取り付けるまでは、本体がずれ落ちる可能性があります。ずれ落ちますと本体もしくは、ワイヤーや壁を傷つける場合があります。

■ KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレート

設置

KEYPAD（キーパッド） 3.1を正しく配置して、KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートを取付けブラケットのベゼルクリップに慎重に合わせます。KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートの周囲に均一に力を加えて、正しい位置にスライドさせます。KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートはしなやかな素材でできており、周囲の壁などに形状がぴったり合うようになっています。

取りはずし

KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートを取外す場合は、壁面を傷つけたり壁紙を破損したりしないように気をつけ、先の薄い工具等で、KEYPAD（キーパッド） 3.1用化粧プレートの端を壁から慎重に剥がします。

接続する

ヘッドエンド

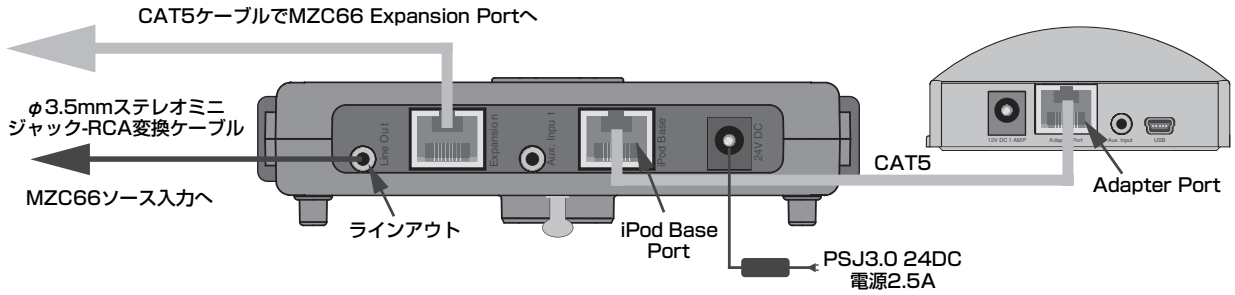


図11　1台のMODE ADAPTERとMODE BASEの接続方法

MODE Adapter（1台）

1	PIN to PINで端末処理されたCAT5ケーブルで**MODE ADAPTERのExpansion Port**と**MZC66の Expansion Port**を接続します。
2	付属の**φ3.5ステレオミニジャック－RCA変換ケーブル**を使用し、**MODE ADAPTERのラインアウト**から**MZC66のソース入力**へ接続します。
3	PIN to PINで端末処理されたCAT5ケーブルで**MODE ADAPTERのiPod Base Port**と**MODE BASEの Adapter Port**を接続します。
4	**Aux Input** － φ3.5mmステレオミニジャックへステレオラインレベルで音声信号が入力されます。接続をすることにより入力信号を追加することが出来ます。この入力の設定はEZ-Toolsでのプログラム設定が必要となります。また、KEYPAD 3.1でのみソース選択可能です。
5	接続が完了しシステムの準備が整ったら**PSJ-3.0**（別売）を**MODE BASEの24VDCジャック**に接続します。その後100V ACコンセントプレートのPSJ-3.0のコンセントプラグを差し込みます。

MODE ADAPTER（連結）

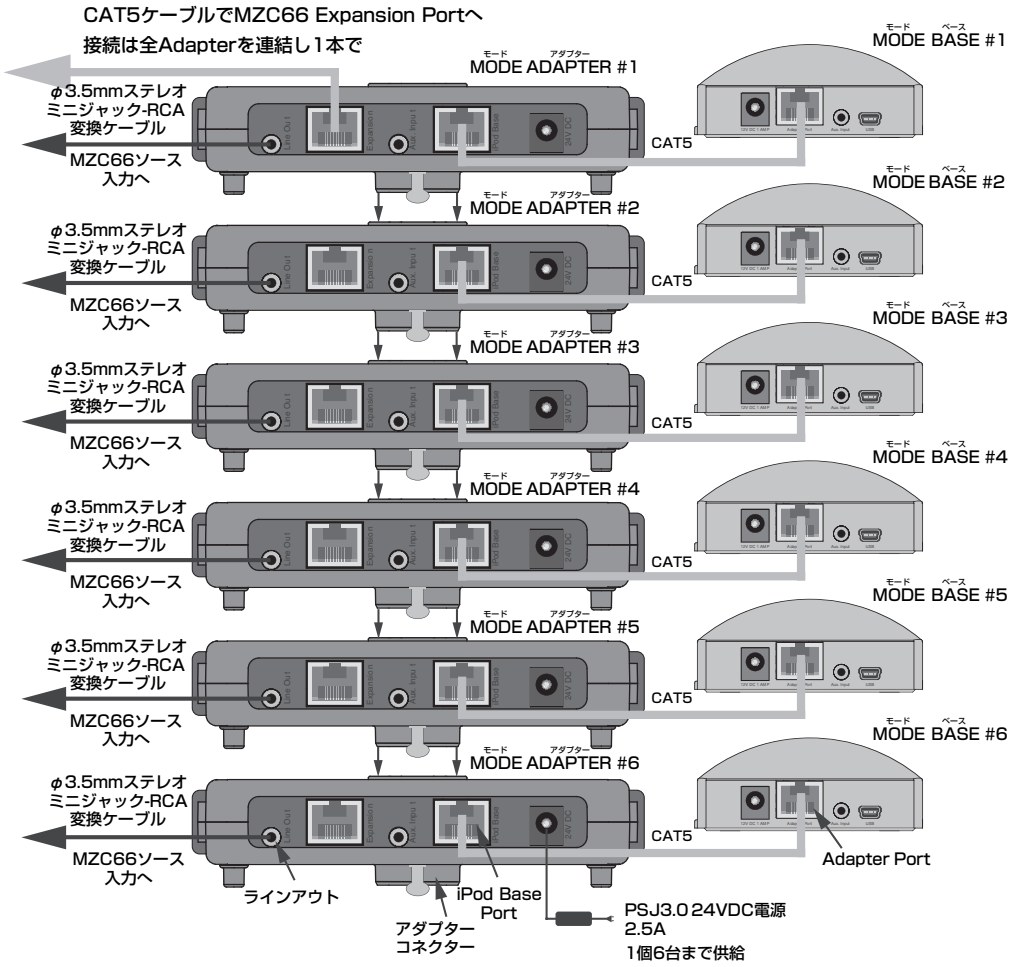


図12　複数のMODE ADAPTERとMODE BASEの接続方法

1	アダプター同士を連結し、12ピンコネクターが「MODEコンポーネントの設置」（16ページ）の箇所で説明されているとおりに接続されていることを確認します。
2	PIN to PINで端末処理されたCAT5ケーブルで**MODE ADAPTERのExpansion Portの1箇所**と**MZC66のExpansion Port**を接続します。（12ピンコネクターから、追加した装置へ電源、メタデータ、コントロール信号のバスが確保されます。）
3	付属の**φ3.5ステレオミニジャック－RCA変換ケーブル**を使用し、**MODE ADAPTERのラインアウト**から**MZC66のソース入力**へ接続します。
4	PIN to PINで端末処理されたCAT5ケーブルで**MODE ADAPTERのiPod Base Port**と**MODE BASEのAdapter Port**を接続します。 上記の手順を繰り返して、アダプターとベースをすべて接続します。事前配線時にCAT5ケーブルが配線されており、リモートゾーンの壁板まで来ている場合、ケーブルをMODE ADAPTERのiPodベースポートに接続します。CAT5パッチケーブルをパススルーコンフィギュレーションで使用し、壁板のRJ45ジャックをMODE BASEのアダプターポートに接続します
5	**Aux Input － φ3.5mmステレオミニジャック**へステレオラインレベルで音声信号が入力されます。接続をすることにより入力信号を追加することが出来ます。この入力の設定は**EZ-Tools**でのプログラム設定が必要となります。また、KEYPAD 3.1でのみソース選択可能です。
6	接続が完了しシステムの準備が整ったら**PSJ-3.0**（別売）を**MODE ADAPTERの24VDCジャック**に接続します。その後100V ACコンセントプレートのPSJ-3.0のコンセントプラグを差し込みます。

MODE BASE

■ アダプターポート

1. PIN to PINで端末処理されたCAT5ケーブルでMODE BASE**のAdapter Port**とMODE ADAPTER**のBase Port**に接続します。
2. Baseの底面にあるソースID切換スイッチで、MZCソースインジケーターと入力しているソース入力番号と一致するよう設定します。
3. Baseの底面にあるアドレススイッチで、各々のBaseへ別々のアドレスを割り当てます。**EZ-Tools**の**ソース設定**の項目で設定したアドレスを正しいアドレスを割り当てます。

■ AUX Input

ステレオφ3.5mmステレオミニジャックへステレオラインレベルで音声信号が入力されます。接続をすることにより入力信号を追加することが出来ます。この入力の設定は**EZ-Tools**でのプログラム設定が必要となります。また、KEYPAD 3.1でのみソース選択可能です

■ USBポート

USBミニBジャックで直接PCと接続することにより、MODE BASEに装着したiPodにコンテンツのダウンロードすることができます。コンテンツのダウンロードは通常の手順に従って行います。詳細はiPodの説明書をご覧ください。

■ 12V DC 1A

電源はMODE ADAPTERから供給されるため通常は使用いたしません。MODE ADAPTERとMODE BASE間が最大長76mとなります。これを超える場合は別途電源供給が必要となり、ここにPSJ-1.0を接続することにより、最大長88mまで延長可能となります。

KEYPAD 3.1

■ パンチダウンブロック

KEYPAD 3.1の接続コネクタは4ペアのパンチダウンブロックで構成されています。接続のケーブルはCAT5をお勧めします。パンチダウンブロックのところにケーブルのカラー識別してあり接続を容易にします。MZCへRJA-1.1を使用せず直接接続する場合は、各線の接続した信号を確認して接続してください。

RJA-1.1を使用すると**RJ45**の端末でMZC-66へ接続可能になります。RJ45のピン配列と設定については**図14**を参照してください。事前にコネクタ処理されているケーブルは使用しないでください。ピン配列が異なるためKeypadの故障の原因となります。

> **ご注意**
> MODEシステムの重大な損傷を防ぐため、ピン配列を順守する必要があります。

MZC-66 RJA1.1を使用しない場合

図13　KEYPADとMZCの接続

コネクタ (RJA-1.1)	ケーブル色	MODE 3.1 パンチングダウンブロック
1	白／緑	GND
2	橙	+12
3	茶	485A
4	青	IR
5	白／青	IR
6	白／茶	485B
7	白／橙	+12
8	緑	GND

RJA1.1を使用する場合

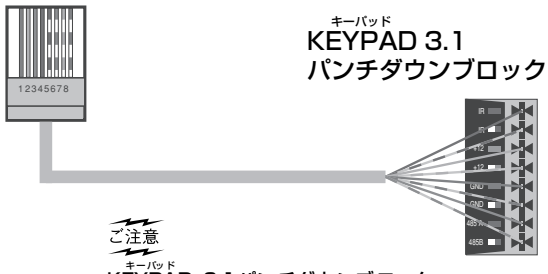


図14　KEYPADとRJA-1.1の接続

■ KEYPAD 3.1の接続

1. KEYPAD 3.1へ接続する側のCAT5ケーブルの外被膜を端から25mm～38mmほど剥きます。内側の導線の被膜は剥かないようにして下さい。
2. 適当な工具を使用して、各線をKEYPAD 3.1の**パンチダウンブロック**へ押し込み接続します。線は必ずKEYPAD 3.1の内側へくるようにして下さい。外側へ線がきますと取り付けブラケットへの取付けが困難になり、取付けた線が抜け落ちる場合があります。
3. Keypadを取付けブラケットへ取付ける前に、**図15**のように付属の**ワイヤー固定具**でKEYPAD 3.1の背面に取付けます。このようにすることで設置時にワイヤーが外れ難くなります。

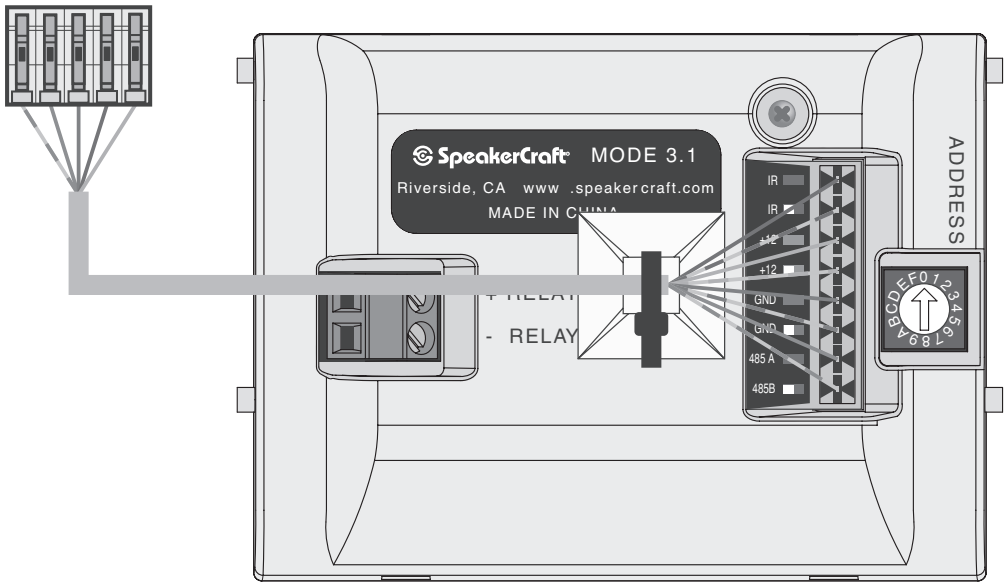


図15　MODEワイヤー固定具

4. システムの電源を入れる前にすべての接続を再確認してください。MZCやKCM-1.0に直接接続する場合は、**図13**を参照してください。**RJ45コネクター**で結線し、**RJA-1.1**を使用する場合は、**図14**を参照してください。

EZ-Toolsによるプログラミング

この「EZ-Toolsによるプログラミング」の説明は、KEYPAD 3.1、MODE BASE、MODE ADAPTERを使用する場合のためのものです。新たに始めからシステムを構築する場合は、まず、別紙のMZC66**取扱説明書**の**「EZ-Toolsによるプログラミング」**を参照し、システム設定、ソース設定、パワーマネージメントの設定を行ってください。その後、KEYPAD 3.1を使用するゾーンの設定はこのマニュアルを参照してください。

ご注意

iPod、MODE BASE、MODE ADAPTERを使用せずにEZ-PadをKEYPAD 3.1に変更する場合は、このマニュアルの**「EZ-Toolsによるプログラミング」「KEYPAD 3.1を既存のMZCプロジェクトに追加する」**の順に進んでください。

すでに設置完了しているシステムでは、すぐにこのプログラミングの説明にてプログラミングを行うことが出来ます。
プログラミングを行うPCのCOM ポートとMZC66 のCONTROL PORTをφ3.5mmプラグ変換ケーブルで接続し、MZC66本体の電源を入れます。以下の手順に従ってください。

EZ-Toolsのダウンロード

EZ-Pad(MKP等)をMODE 3.1へ入れ替えるだけで、**ソース**や**ゾーン**の**設定変更を行わない**場合は、この項目の説明に従ってください。

クイックスタートガイド

EZ-PadをKEYPAD 3.1に更新するだけで、**ソースやゾーンの変更を行わない**場合は、この箇所の説明に従ってください。

1. 既存のMZCプロジェクトを**開きます**。
2. **「Project Content/ZONE SETUP」**の中からKEYPAD 3.1を使用したい部屋に当たるZoneを選択します。
3. **「Zone Setup」**のウィンドウ上の**「Name/Sources」**のタブをクリックします。**「Available Sources」**内で使用するソースに変更がある場合は、必要に応じチェックボックスにチェックを入れたり外したりして最後に**[Apply]**ボタンをクリックして下さい。
4. **「Zone Setup」**のウィンドウ上の**「Keypad」**のタブをクリックします。
5. **「Graphic Keypad(s)」**の中のMODE3.1のチェックボックスをクリックしてチェックを入れます。最後に**[Apply]**をクリックします。
6. 「Zone Setup」のウィンドウ上の**「Whole House/Mute」**のタブをクリックします。
7. **「Whole House/Party Mode」**および**「Mute Key Functionality」**の設定を変える場合は予定の変更を加えてから**[Apply]**をクリックします。
8. ZONE SETUP内の設定中の「MODE3.1」標記のアイコンを右クリックしてポップアップウィンドウの「MODE3.1 Setup」をクリック**「Zone MODE3.1」**のウィンドウで設定するキーパッドのアドレスを**「Address Box」**にチェックを入れます。1つのゾーンに1つのキーパッドの場合は他のゾーンで設定しているアドレスと重複してもかまいません。
9. **「Project Content/ZONE SETUP」**の下にある設定中の「ZONE」のアイコンを右クリックします。ポップアップウィンドで**「Place Default A/V Routing Commands」**を選択します。
10. 設定するキーパッドの**[MODE 3.1] アイコン**をクリックします。**[Virtual MODE 3.1, Button] プロパティ**と**[Virtual Button] ウィンドウ**が表示されます。
11. MODE-3.1-のウィンドウ内のソースリストにある最初のソースをクリックします。
12. **[Virtual Keypad]**の**[Volume Up] 矢印**をクリックします。**[CMD MZC Cmds] タブ**をクリックして、**[Audio Level Commands] タブ**を開き、プログラムする**ゾーン**の**[Volume Up Command]**をダブルクリックします。
13. **[Volume Up] 矢印**を右クリックしてから**[Punch Key's Commands] を選択**し、すべてのソースにVolume Upコマンドを使用できるようにします。ポップアップウィンドウで**[Yes]**をクリックします。[Volume down]についても同様の手順を繰り返します。
14. ミュートをプログラムするには、[Volume Knob]の内側を右クリックします。ポップアップウィンドウで、**[Mute (Preamp)] キー**を選択します。これで、すべてのソースに対し**ゾーン**と**[Whole House Mute]**をプログラムできます。
15. **[MODE Power] ボタン**を右クリックします。ポップアップウィンドウで、**[Zone Power Off] キー**を選択します。これで、すべてのソースに対し**ゾーン**と**[Whole House Mute]**をプログラムできます。
16. ソースごとにハードキーにプログラムすることができます。MODE3.1-ウィンドウの中のソースリストからプログラムを必要とするソースを選択します。**「CMD Library」**タブをクリックしプルダウンメニューから製品Brandを選び機種、製品型番またはCode Setから必要コードを選びダブルクリックします。他のハードキーや、他のソースのハードキーへ同様の作業を行います。
17. ハードキーへプログラムしきれないものは Virtual Buttonを作成してプログラムすることができます。これらのVirtual Buttonはソース選択後にディスプレイに表示するようになります。
作成にはまず、Virtual Buttonが必要とするソースを選択します。次にVirtual Button Listのウィンドウ上で右クリックしポップアップウィンドウから**「Add Multiple New Menu Item」**を選択します。作成するVirtual Buttonの名称**「Enter Item Name」**に入力し**[>>]**をクリックして**「Item Name」**に追加します。必要なものを続けて入力できます。終了したら**[OK]**で終了します。
18. **「Virtual Button List」**に反映された**「Virtual Button」**をクリックして、**「CMD Library」**タブをクリックしプルダウンメニューから製品Brandを選び機種、製品型番またはCode Setから必要コードを選びダブルクリックします。他のVirtual Buttonにも同様の作業をします。
19. 完了しましたらプロジェクトを MZC-66 へダウンロードし、すべての機能の動作テストを行ってください。必要に応じて前の手順に従って変更を加えてください。

MODEプログラミングの詳細は次項を参照してください。

iPod、MODE BASE、およびMODE ADAPTERを既存プロジェクトに追加する

EZ-Toolsを実行して、MODEを追加したいプロジェクトを開きます。

プロジェクトを開く

1. メニューバーより**[File]**を選択します。
2. プルダウンメニューで、**[Open]** を選択します。
3. ウィンドウから設定するプロジェクトを選択します。**図16**のように、既存のプロジェクトが開きます。

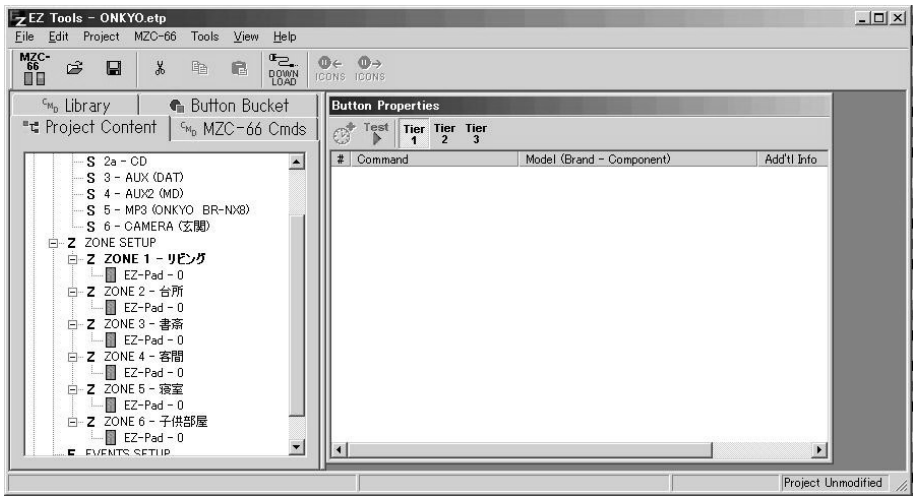


図16　既存のプロジェクトを開く

ソースの設定

4. 1台または複数台の**MODE BASE**及び**MODE ADAPTER**を使用して**iPod**を追加する場合は**「Project Content」**タブから**「Source Setup」**をクリックします。
「MZC-66Setup」ウィンドが表示されます。
5. iPod に変更する Source のプルダウン矢印をクリックして iPod を選択します。ここではソース 2 を使用しますのでSource2のSource NameがiPodに変わります。「Source Assignments」タブ内のメニュー表示にSource2のところにAddress/Option/Nameのメニューが加わります。
6. **「Description」**の欄に分かりやすい名称を入力します。
7. MODE BASEとMODE ADAPTERを介してiPodをソース2へのみ入力する場合Addressは「0」のままにします。他に2台3台と複数台接続する場合はそれぞれ別々のAddressを設定します。
8. **「Sub Source Input」**の欄は追加するソースがなければ**「None」**にします。追加するソースがある場合はMODE BASEもしくはMODE ADAPTERに接続され、環境に応じて**「Base Aux In」**または**「Adapter Aux In」**を選択します。入力は1ソースにつきどちらか１つになります。これらの機能を活用することで最大12ソースまで接続可能になります。

> **重要**
> MODE BASEおよびMODE ADAPTERのAux Inへ入力されたソースの選択は、KEYPAD 3.1からのみとなります。通常のEZ-Padからは切り替えられません。

9. Aux Inへ接続した機器のソース名を**「Name」**の欄へ入力してください。ここで入力したソース名はKEYPAD（キーパッド） 3.1のディスプレイに表示されますので分かりやすいものを入力すると良いでしょう。ここでは例としてCDと入力します。
10. ほかに変更点がなければ、［MZC Setup］ウィンドウで**［Apply］**をクリックします。これで新しい設定内容が保存されます。ほかにもベースやアダプターを追加するのであれば、新規のベース/アダプターのペアごとに上記の手順5～9を繰り返します。［Apply］をクリックして、それぞれの設定内容を保存します。

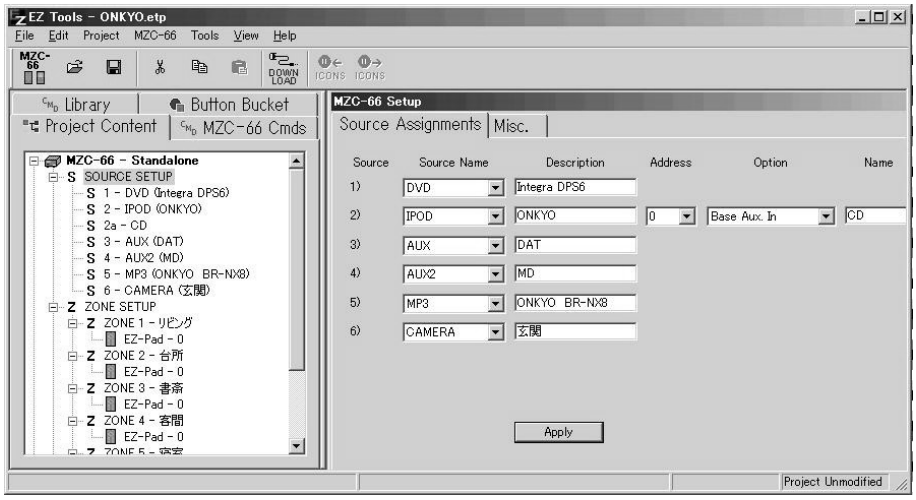


図17　ソース設定の変更

11. ”**The Cable Source has been changed to a IPOD Source...Do you still want to continue?**”（**「ケーブルソースがiPodソースに変更されています。続けますか?」**）という**警告ウィンドウ**が表示されますので**［YES］**をクリックします。複数のソース変更を行った場合は、変更のたびに警告が表示されます。希望以外の変更がされていないか、それぞれの内容を再確認してください。
12. 警告が消えると**「Project Content」タブ**の中の**「Source Setup」**が更新されて新しい設定内容が表示されます。（**図17**参照）Source2がiPodに変わり新しいSourceとして2aにCDが表示されます。
13. この時点で、EZ-Padのソース選択ボタンも新しい設定に変更になっています。この例では、**図18**のようにSource2の選択ボタンが”iPod”に変更になります。これに伴いSource2に関連するすべてのプログラミングは、すべてのゾーンともiPodのコマンドへ変更する必要があります。**「CMD Library」タブ**より**「Brands」**のプルダウン矢印をクリックして**「SpeakerCraft」**を選択します。**「MODE」フォルダー**から**「MODE BASE」フォルダー**を選択します。

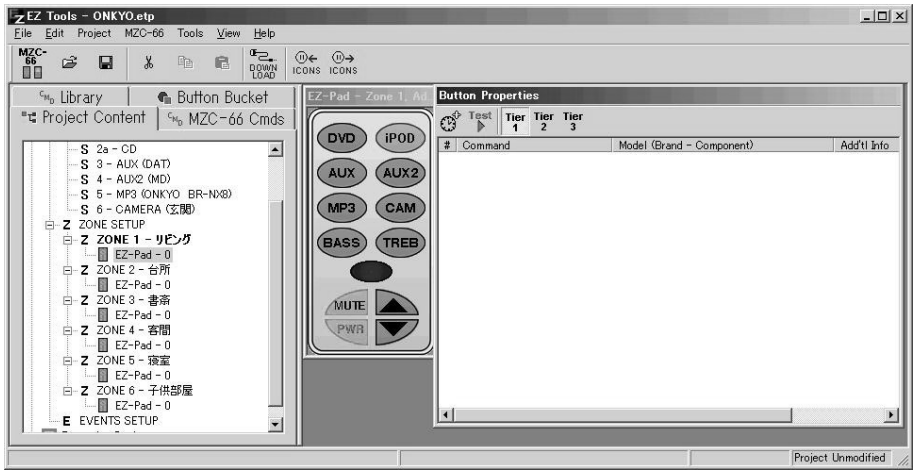


図18　更新されたソース設定とEZ-Pad設定

ゾーンの設定

14. **Project Content**のタブをクリックして、**ZONE SETUP**の中の編集するEZ-Padを選択します。表示されたEZ-Padから**iPodのソース選択ボタン**をクリックします。iPodのボタンは青く表示され**「Button Properties」のウィンドウ**には、プログラムされているコマンドが表示されます。
15. このコマンドは iPod へ変更する前のコマンドが表示されているので、右クリックしてポップアップウィンドを表示させ**「Delete Command」**を選択しコマンドを削除します。
16. EZ-Pad iPodコントロールプログラミング用の［CMD Library→SpeakerCraft→MODE→MODE Base Command Library］で、目的とするコマンドをダブルクリックします。
17. iPodの項目内のすべてのボタン用に、手順15と16を繰り返します。
18. 他のZoneのKeypadの構成が同じであれば、ここで組んだプログラムを他のZoneのKeypadへコピーすることができます。編集したZoneのiPodのソース選択ボタンを右クリックし表示されたポップアップウィンドウから**「Copy All Source Bank Commands」**を選択します。コピーする先のZoneを選択してiPodのソース選択ボタン上で右クリックし表示されたポップアップウィンドから**「Paste Source Bank Commands」**を選択します。他のZoneにも同様な手順を繰り返して行えますが、異なった設定をする場合は、個別でプログラミングが必要となります。

ダウンロードとテスト

19. この時点でプロジェクトをMZC-66へダウンロードしてEZ-Padへの変更内容とiPod、MODE（モード） BASE（ベース）、MODE（モード） ADAPTER（アダプター）との動作テストをすることをお勧めいたします。

KEYPAD 3.1を既存のプロジェクトへ追加する

この説明書は、1台もしくは複数台のKEYPAD 3.1、MODE BASEおよびMODE ADAPTERを既存のMZCシステムに追加するためのものです。新設の場合は別冊**MZC-66取扱説明書**に沿って、システム設定、ソース設定、パワーマネージメントの設定を行ってください。KEYPAD 3.1を使用してのゾーン設定、プログラミングはこの説明書に従ってください。

KEYPAD 3.1を既存のプロジェクトに追加する場合、ソース設定は自動的に行います。KEYPAD 3.1を追加する場合は以下の手順で行います。

プロジェクトを開く

1. 編集するMZCプロジェクトを開きます。
2. **[Project Content] タブ**の下で、**[Source Setup]** の下にあるシステムのソース設定を確認します。ソース設定が正しければ、手順3に進みます。正しくなければ、**「iPod、MODE BASE、およびMODE ADAPTERを既存プロジェクトに追加する」**に戻って、手順に従います。

ゾーンの設定

3. **[Project Content→Zone Setup]** の下にあるゾーンの中から、KEYPAD 3.1を追加したいゾーンをクリックします。この例ではZone 2になります。**図19**のように、**[Zone 2 Setup] ウィンドウ**が表示されます。

名称/ソース

4. このゾーンで使用するソースを**「Available Sources」**でチェックがされているか確認します。変更がなければそのままで**[Apply]**ボタンをクリックします。(Source 2aとして接続されているソース名はここでは表示されません。このKEYPAD 3.1および追加された他のKeypadで自動的に利用可能となります。) 使用ソースを変更される場合は必要に応じてチェックマークをはずしたり入れたりしてください。最後に **[Apply]** ボタンを押します。

キーパッド

5. ゾーンへKEYPAD 3.1を追加する場合には、**「Keypad」**のタブをクリックします。「MKP-1x(NKP,FKP)」のチェックボックスへチェックが入った状態で**「Graphic Keypad」**の項目のKEYPAD 3.1のチェックボックスをクリックしてチェックを入れます。EZ-PadからKEYPAD 3.1 へ入れ替える場合は、「MKP-1x(NKP,FKP)」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずします。最後に **[Apply]** ボタンをクリックして情報を更新します。

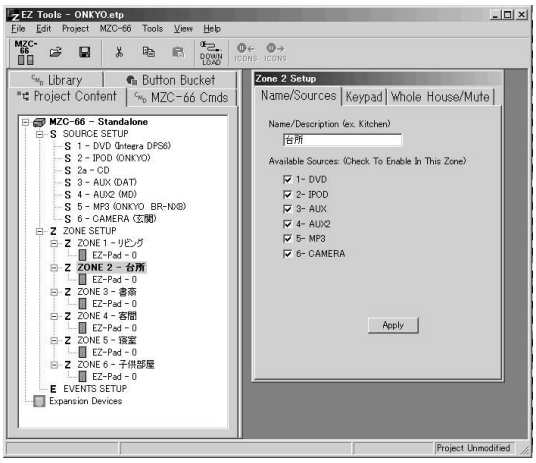


図19 [Zone Setup] ウィンドウ

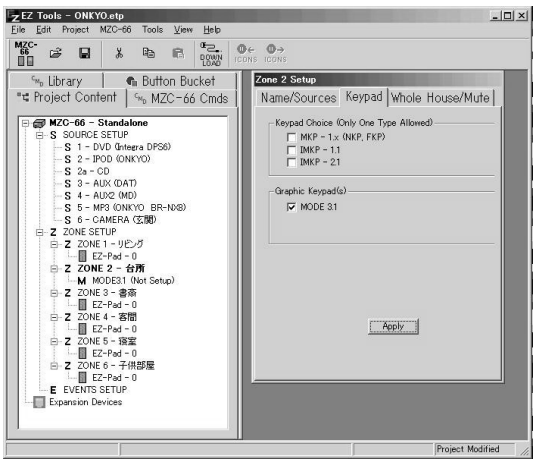


図20 [Zone Setup] キーパッドタブ

Whole House/Mute

6. **[Whole House/Mute]タブ**をクリックして、Whole HouseとMuteのキー機能を確認します。これらの機能は、既存のプロジェクトですでに設定済みのはずです。**[Whole House/Party Mode]**で**[This Zone Initiates]**をチェックし、KEYPAD(キーパッド) 3.1でソースを選択する際に**クリックボタン**を押したままにするとParty Modeになります。**[This Zone Ignores...]**は、ほかのゾーンからのParty Modeコマンドを拒否する場合にチェックしてください。**[Mute Key Functionality]**の下の**[Internal Preamp Muting]**は、MZCゾーンのプリアンプミューティング機能を使用する場合にチェックしてください。**[EZ-Pad Relay Speaker Muting]**は、1つのゾーン内にマルチルームがあるという設定ができるサブゾーン拡張アプリケーション使用時にそれぞれの部屋をミュートするためのEPR-1.0 EZ-Padリレーミューティングモジュールを使用する場合にチェックしてください。[Zone Whole House / Mute]を設定する場合は、**[Apply]**をクリックします(**図21**参照)。

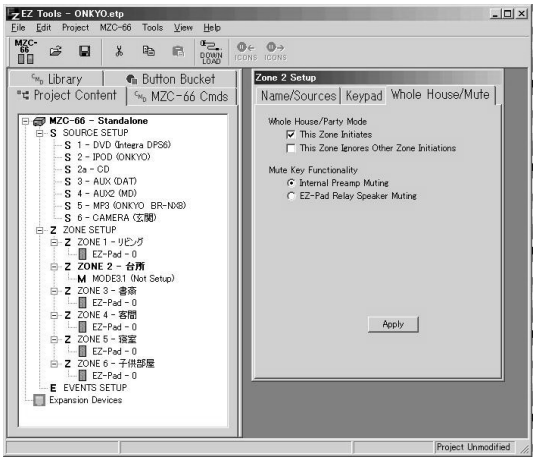


図21 [Zone Setup]の[Whole House/Mute]タブ

Keypadのアドレス

7. KEYPAD(キーパッド) 3.1でもEZ-Padと同様、キーパッドのアドレス設定が必要となります。1つのゾーンに1つのキーパッドしか接続しない場合は、他のゾーンのアドレスと同じでもかまいませんが、1つのゾーンに複数のキーパッドを接続する場合は、必ず各々に別々のアドレスを設定する必要があります。設定するゾーンのEZ-PadもしくはMODE 3.1のアイコンを右クリックしてポップアップメニューの”・・・Setup”のメニューをクリックします。各キーパッドへ設定したアドレスをチェックボックスへチェックを入れます。**[Apply]**ボタンをクリックして情報を更新します。アイコンの横に設定したアドレスが表示されます。(**図22**参照)

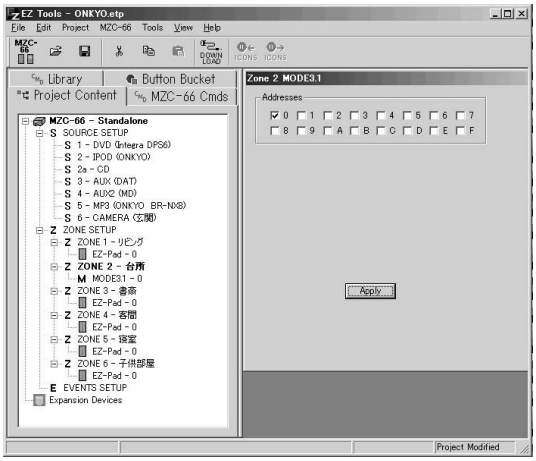


図22 [Zone Setup]のキーパッドアドレス

AVルーティングコマンド

8. MZC に入力されている各ソースが各々のゾーンへ正しく出力されるようにするため、既定のAVルーティングコマンドをMODE3.1内のソースアイコンへ割り当てることができます。**「Project Content/Zone Setup」**内のセットしようとする Zone(ここでは例としてZone2)のアイコンを右クリックします。ポップアップメニューから**「Place Default A/V Routing Commands」**を選択します。Zone2にて利用可能なソースのZone出力コマンドが割り当てられます(**図23**参照)。
9. これでKEYPAD(キーパッド) 3.1をZone 2に組み込むためのゾーンの設定は終わりです。**[Project Content→Zone Setup→Zone 2]**の下で、[MODE 3.1]アイコンをクリックします。**[virtual MODE 3.1]**が**[Button Properties]ウィンドウ**と**[Virtual Button]ウィンドウ**とともに表示されます(**図24**参照)。

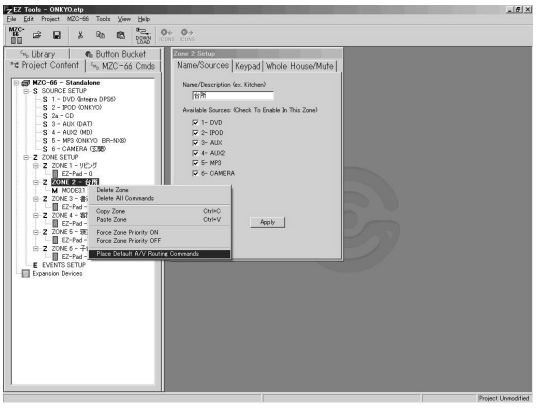


図23 [Place Default A/V Commands]

仮想KEYPAD（キーパッド） 3.1ウィンドウ

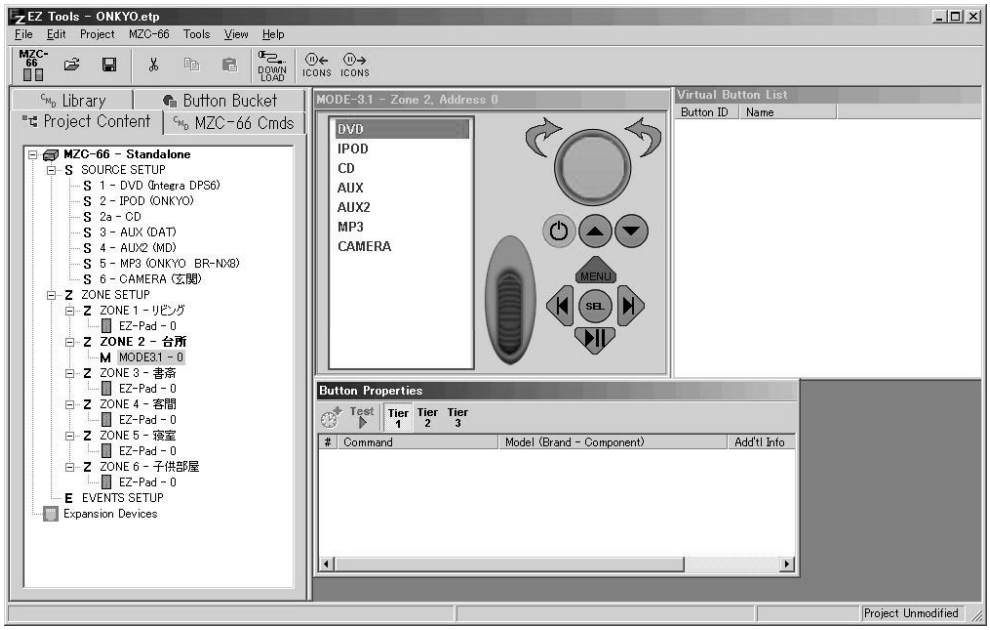


図24　仮想KEYPAD（キーパッド） 3.1ウィンドウ

「Virtual MODE」ウィンドウには、参考のために**「Zone Number」**と**「Key Address」**が表示されます。「Source List」の「Source」アイコンとEZ-Padのソースキーとの動作は同じです。違いは、EZ-Padはプッシュ式のハードキーに対しKEYPAD（キーパッド） 3.1はLCD上に仮想ボタンとなって表示されスクロールホイールとクリックボタンで選択します。「Source」アイコンは他のキーと同様、アイコンを選択し、**「CMD MZC Cmds」タブ**または、**「CMD　Library」タブ**の中のコマンドをダブルクリックしてプログラムしていきます。プログラムされたコマンドは**「Button Properties」**のウィンドウに表示されます。

ご注意

スクロールホイール、クリックボタン、およびメニューキーのプログラムは変更することができません。LCD上でのリストやメニューのスクロール（スクロールホイール）、それらリストやメニューからの項目選択（クリックボタン）、および現在のMODE機能に応じたMODE 3.1メインメニューへの復帰やiPodメニューの選択は、工場出荷時にプログラムされている機能で、削除はできません。iPod以外のソースが選択されている場合、メニューキーを押すと、MODEメインメニューに戻ります。iPodが選択されていて演奏中の場合は、メニューキーを押すと、1つ前のiPodメインメニュー表示に戻ります。iPodモードでメニューボタンを押し続けると、MODEメインメニューの表示に戻ります。

Virtual Button List Window

KEYPAD（キーパッド） 3.1で任意のソースを選択すると、LCDの表示情報がそのソースに関係する仮想ボタンに変わります。特定の機器またはシステムのコントロールに関連づけられたコマンドのメニューやリストの表示方法を設定することができます。

[Virtual Button List] ウィンドウは、コマンドのメニューやリストを作成するウィンドウです。MZCシステムに接続する機器のコマンドであれば、実質的にどのようなものでもMODE仮想ボタンにプログラムすることができます。ポップアップツールを使用して、機能名のところにPlay、Stop、Menu、Aspect Ratioなどをタイプするだけで仮想ボタンを作成できます。仮想ボタンができたら、[EZ-Tools Command Library] からMZC内部コマンド、IRコマンド、またはRS232コマンドを仮想ボタンに関連づけることができます。必要なIRコマンドやRS232コマンドがライブラリーにない場合は、SpeakerCraft **LTM-1.0 Learn/Testモジュール**を使用してIRコマンドを学習させるか、**RS232 Command Properties Tool**を使用してRS232コマンドを生成し編集することにより追加できます。詳細は、**「MZCの設置説明」**箇所で、**IRコマンドの学習**および**RS232コマンド**を参照してください。

EZ-Toolsを使用してそのほかのキーのプログラミングを行うときと同様、仮想ボタンに関連づけられたコマンドは、[Button Properties] ウィンドウに表示されます。仮想ボタンのプロパティーはEZ-Padのプロパティと同じで、単一のコマンドまたはマクロ、および高度なアプリケーション用にアクセスが段階的になっているコマンドを実行することができます。

図24に示すKEYPAD（キーパッド）3.1をプログラムするには、以下の手順に従います。

1. 仮想キーパッド上の**「DVD」**のソースアイコンをクリックします。青く反転表示されます。これは「DVD」の項目が選択されていることを示しています。

■ ボリューム

2. **[Volume Knob Down] 矢印**をクリックします。[DVD] が赤く表示されて、どのソースがプログラム中であるかを示し、▲が青く表示されてプログラム中のボタンを示します。
3. **[CMD MZC Cmds] タブ**をクリックし、[+] 記号をクリックするか [Audio Level Commands] をダブルクリックして、**[Audio Level Commands] タブ**を表示します。MZCオーディオコマンドの全リストが表示されます。
4. リストを下にスクロールして、**[Zone 2 Commands]** を探します。**[Zone 2 Volume Down]** をダブルクリックします。[Zone 2 Volume Down] コマンドが **[Button Properties] ウィンドウ**に表示されます。**[Volume Down] 矢印**を右クリックします。ポップアップウィンドウで、**[Punch Key's Commands]** を選択し、ボリュームアップコマンドを全ソースで利用できるようにします。
5. 次に **[Volume Knob Up] 矢印**をクリックします。**[CMD MZC Cmds] リスト**で **[Zone 2 Volume Up]** をダブルクリックします。[Zone 2 Volume Up] コマンドが **[Button Properties] ウィンドウ**に表示されます。**[Volume Up] 矢印**を右クリックします。ポップアップウィンドウで、**[Punch Key's Commands]** を選択し、ボリュームダウンコマンドを全ソースで利用できるようにします。

■ Mute

6. 次はミュートボタンです。ボリュームノブを押すと、プログラムされているコマンドやマクロを実行できます。ノブの押し下げ機能は、ゾーンミュート用としてご使用になることをお勧めします。この例では、MZCプリアンプゾーンミュートを使用します。

   [Volume Knob] の内側を右クリックします。**図26**のように、ポップアップウィンドウで、**[Mute (Preamp) Key]** を選択します。これで**ゾーン**と**家中をミュートにする**ためのキーが設定され、コマンドがすべての列に有効になります。キーが緑色になり、家中をコントロールする特殊機能を持っていることを示します。

   このボタンは押す時間が2秒未満であれば、1度目はゾーンをミュートし、2度目はミュートを解除します。また、2秒以上押し続けると、家中のすべてのゾーンをミュートにし、再度2秒以上押し続けるとミュートを解除します。

■ Power

7. **[MODE Power] ボタン**を右クリックします。**図27**のように、ポップアップウィンドウで **[Zone Power Off Key]** をクリックします。これで**ゾーン**と**家中で電源をオフにする**ためのキーが設定され、コマンドがすべての列に有効になります。キーが緑色になり、家中をコントロールする特殊機能を持っていることを示します。

   [Power Key] は押す時間が2秒未満であれば、ローカルゾーンの電源が切れ、一般的に共通ソースの電源は、最後のゾーンの電源が切れるまでは給電状態を維持します。また、[Power Key] を2秒以上押し続けると、家中のすべてのゾーンの電源が切れるだけでなく、一般的に共通ソースの電源も切れます。

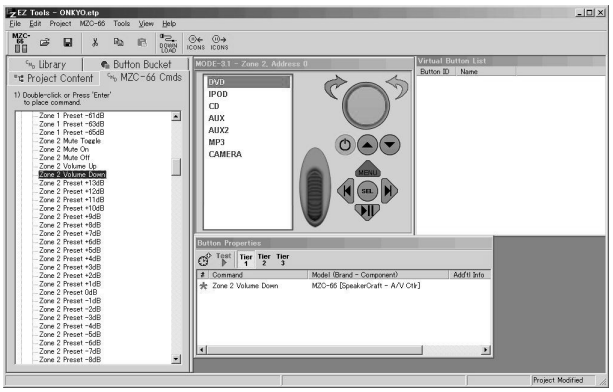


図25 [Volume Up Command] の配置

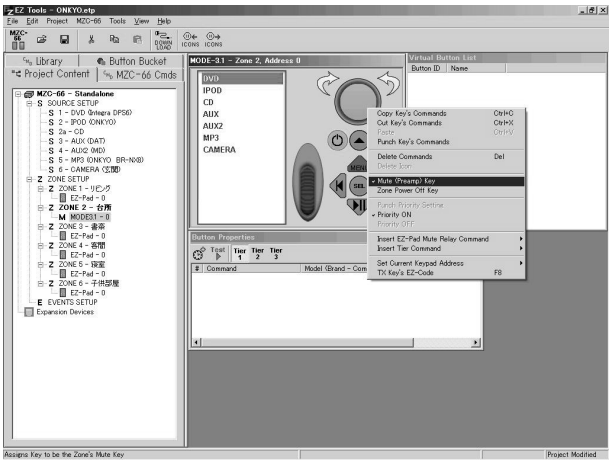


図26 [Zone Whole House/Mute] コマンドの配置

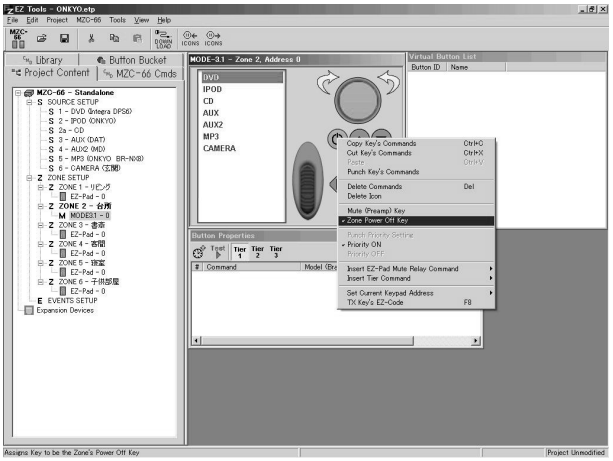


図27 [Zone/Whole House Power] コマンドの配置

ソースコントロールのプログラミング

KEYPAD（キーパッド） 3.1をプログラムすれば、ハードキーまたは仮想ボタンを使用して、MZC 66システムに接続されたソースをコントロールすることができます。プログラミングは、標準のEZ-Toolsのプログラム手順に対応しています。ハードキーのプログラミングは、一番よく使う［Play］、［Skip］、［Channel Up/Down］などのコマンドに割り当ててください。仮想ボタンは、IRコマンドやRS232コマンドがコマンドライブラリーで利用できるソース機能のコントロール用としてプログラムできます。たとえば、DVDプレーヤーのコントロールをプログラムする場合、画面サイズやズームなど、どのような内容のものであれ、各種のメニューオプションを仮想ボタンとして設定することができます。
設定手順は基本的にどのソースでも同じですので、ここではDVDを例に説明します。そのほかのソースにも以下の説明を当てはめて、ソースごとに適切なコマンドをプログラミングしてください。

ハードキーのプログラミング

1. まだ開いていなければ、**［CMD Library］タブ**をクリックして開きます。**［Brands］**からプルダウン矢印をクリックしてリストをスクロールし、使用するDVDプレーヤーのメーカーリストを探すか、［Brands Box］をクリックして、DVDプレーヤーのメーカー名をタイプします。［+］記号をクリックして**［DVD］タブ**を表示するか、［DVD］アイコンをダブルクリックします。場合によっては、DVDコマンドのサブディレクトリーが表示されます。メーカーによっては、複数のコードグループを持つ特定の機器もあります。正しいコードグループを判別するため、試行錯誤が必要になる場合もあります。一般的に、電源、再生、停止のようなコマンドをテストすれば、正しいコードグループが分かります。リストを見て調べれば、いくつかの特殊コマンドがどのリストで使用できるようになっているかが分かる場合があります。利用できないコマンドは、EZ-Toolsに学習させることができます。コマンドの学習が必要な場合は、**「MZCの設置説明」**の箇所にある**「IRコマンドの学習」**を参照してください。
2. **［Previous Track］**ボタンをクリックします。［CMD Library］の下で、**［Chapter/Skip Down］**をダブルクリックします。
3. **［Next Track］ボタン**をクリックします。［CMD Library］の下で、**［Chapter/Skip Up］**をダブルクリックします。
4. **［Play/Pause］ボタン**をクリックします。［CMD Library］の下で、利用可能なコードに応じて、**［Play or Play/Pause］**をダブルクリックします。

このプログラミングにより、ハードキーを使用した基本的な送り/戻りのコントロールができるようになります。付加的なコマンドをプログラムするため、必要に応じて仮想ボタンを追加できます。

仮想ボタンのプログラミング

ご注意
iPodで使用する場合のMODEのデフォルトの機能では、MODE LCD上のiPodメニューの特長を複製するようになっています。したがって、iPodでの使用を目的として設定できる仮想ボタンはありません。

5. 仮想キーパッドで**DVD**を選択し、**［Virtual Button List］ウィンドウ**の中で右クリックします。
6. **仮想ボタンを1つだけ追加**する場合は、**［Add New Menu Item］**をクリックします。**［New Item］ウィンドウ**で、機能の中にタイプして**［OK］**をクリックします。手順11に進みます。
7. **複数の仮想ボタンを追加**する場合は、［Virtual Button List］ウィンドウの中で右クリックし、**［Add Multiple New Menu Items］**を選択します。［New Source Menu Items］ウィンドウで、**［Enter Item Name］ブロック**に最初の機能名をタイプします。**［>>］ボタン**をクリックするか、PCのキーボードの改行キーを押して、［Item Names List］に機能を追加します（**図28**参照）。［Add New］リストから項目を削除するには、削除したい項目を反転表示して**［<<］ボタン**をクリックします。すべての機能が［Item Names List］に追加されたら、**［OK］**をクリックします。［Virtual Button List］から項目を削除するには、項目を右クリックし、**［Delete Item］**を選択します。

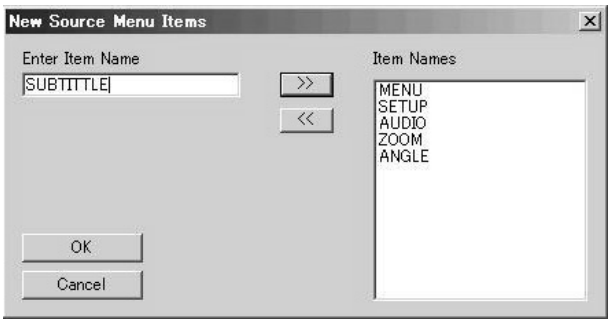


図28　DVD/CD仮想ボタンの作成

8. **IRコマンド**や**RS232コマンド**を**仮想ボタン**に関連づけるには、まだ開いていなければ、**[CMD Library] タブ**をクリックして開きます。手順1の説明を参照して、プログラムする **[Brand]** と **[Device]** を選択します。

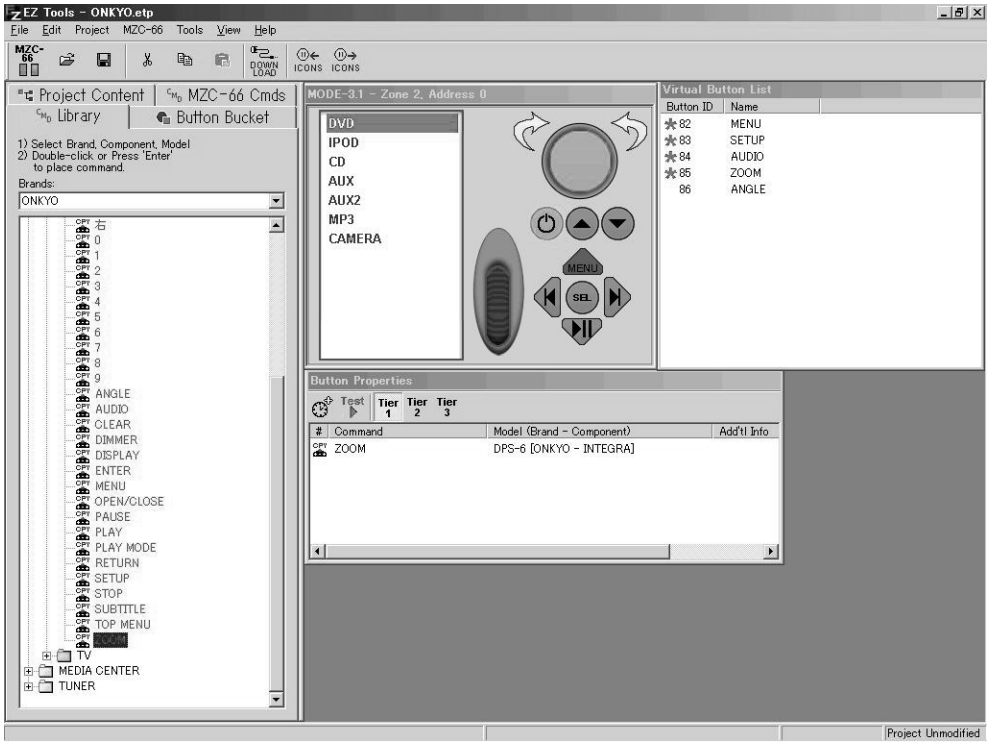


図29　仮想ボタンへのIRコマンドの配置

9. プログラムする仮想ボタンをクリックします。[CMD Library] にあるIRコマンドまたはRS232コマンドをダブルクリックします。**[Virtual Button List]** 中の機能のそばに**赤いアステリスク**が表示されて、関連づけられているコマンドやマクロを示します。コマンドが **[Button Properties] ウィンドウ**に表示されます（**図29**参照）。すべての仮想ボタンに同じ手順を繰り返します。

■ マクロ

10. 仮想ボタンは、標準のEZ-Toolsのプログラミング方法に従って、**マクロ**を実行できるようにプログラムすることができます。マクロとして設定する**仮想ボタン**をクリックします。**[CMD Library]** から1つのコマンドをダブルクリックします。そのコマンドが **[Button Properties] ウィンドウ**に表示されます。**[CMD Library]** の中を移動して、マクロに加えたい次のコマンドを探します。コマンドをダブルクリックします。マクロに加えたいすべてのコマンドのプログラムが終わるまで、同じ手順を繰り返します。

■ ディレイ

11. **「Button Properties」ウィンドウ**で **[Clock] アイコン**をクリックすることにより、あるマクロの中のコマンドとコマンドの間にディレイを加えることができます。既存のマクロにディレイを加えると、「Button Properties」ウィンドウの **[Command List]** の下部にディレイが表示されます。ディレイをクリック/ドラッグして、コマンドとコマンドの間の望ましい場所に置きます。コマンドとコマンドの間に**赤線**が表示され、ディレイの配置場所を示します。ディレイ時間を調整するには、[Command List] でそのディレイをダブルクリックします。**[Delay Properties] ウィンドウ**が表示されます。0.1～20.0秒までの任意の数値をタイプするか、上下の矢印キーを使用して設定します。**[OK]** をクリックします。
12. 前の手順を**繰り返して**、[CMD Library] からソースごとに適切な [Brand/Device] コマンドを使用して、MODE 3.1 を**その他すべてのソース**にプログラムします。ライブラリーにないコマンドについては、「MZCの設置説明」箇所で、**IRコマンドの学習**および**RS232コマンド**（MZC-88）を参照してください。

KEYPAD（キーパッド） 3.1の操作

以下では、KEYPAD（キーパッド） 3.1/MZCの標準的な設置状態における、ソース、ゾーン、システムの基本的な操作について説明します。ハードキーおよびバーチャルボタンの機能は、プログラム設定の内容に応じて、変更されている場合があります。

電源を入れる

1 **スクロールホイールを回して、LCDに表示されているソースを選択します。**

（キーパッドが「スタンバイ」状態の場合、スクロールホイールを回すか、またはいずれかのボタンを押すと、キーパッドの電源が入ります。）

2 **クリックボタンを押して、ソースを選択します。**

図30　DVDバーチャルボタン

［Zone］が点灯します。
選択したソースが、LCDの上部に表示されます （**図30**参照）。

電源を切る

ゾーンの場合

［Zone Power Off Key］を押します。（2秒以上押さないでください。）

赤い **［OFF］** の表示と **「Source Not Selected」** というメッセージが、LCDの上部に表示されます（**図31**参照）。

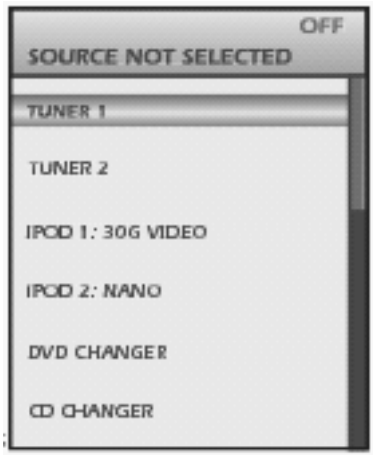


図31　MODEメインメニュー

ローカルゾーンの電源が切れます（ローカルゾーンが電源を切る最後のゾーンの場合を除く）。共通のソースの電源は入ったままです。ローカルゾーンが電源を切る最後のゾーンの場合、共通のソースの電源も切れます。

ハウス全体の場合

［Power Off Key］を2秒以上押し続けます。

すべてのゾーンとソースの電源が切れます（EZ-Toolsの **［Zone Setup/Whole House/Mute］** であるゾーンに対して **「This Zone Ignores Other Zone Initiations」** が選択されている場合を除く）。「This Zone Ignores Other Zone Initiations」が選択されている場合、そのゾーンに対しては［Whole House Power OFF］コマンドは働かず、共通のソースの電源は最後のゾーンの電源が切れるまで入ったままです。

ソースの選択

1 **スクロールホイールを回して、LCDに表示されているソースを選択します。**

（キーパッドが「スタンバイ」状態の場合、スクロールホイールを回すか、またはいずれかのボタンを押すと、キーパッドの電源が入ります。）

2 **クリックボタンを押して、ソースを選択します。**

［Zone］が点灯します。
選択したソースが、LCDの上部に表示されます （**図30**参照）。

音量の調節選択

ボリュームノブを右に回すと音量が大きくなります。
（ボリュームノブの周囲にある青いLEDが音量の大きさを表します。）

ボリュームノブを左に回すと音量が小さくなります。
（ボリュームノブの周囲にある青いLEDが音量の大きさを表します。）

ミュート

ローカルルームまたはゾーン

ボリュームノブを押す（2秒未満）ことで、ローカルルームまたはゾーンの音のミュートまたはミュート解除を切り替えることができます。

- ボリュームノブを押すと、［Speaker Relay Mutes］で制御されているゾーンプリアンプまたはローカルスピーカーの音が**ミュート**されます。赤い **［MUTE］** の表示がLCDの上部に表示されます。
- ボリュームノブを押すと、ゾーンプリアンプまたはローカルスピーカーの音の**ミュートが解除**されます。LCDの上部に表示されている赤い［MUTE］の表示が消えます。

パーティーモード

ボリュームノブを2秒以上押し続けると、システム全体（すべてのゾーン）の音のミュートおよびミュートの解除ができます（EZ-Toolsの［Zone Setup/Whole House/Mute］であるゾーンに対して「This Zone Ignores Other Zone Initiations」が選択されている場合を除く）。「This Zone Ignores Other Zone Initiations」が選択されている場合、そのゾーンに対しては［Whole House Mute］コマンドは働きません。

- **ボリュームノブを2秒以上押し続ける**と、**すべての**ゾーンプリアンプとスピーカーの音が**ミュート**されます。システムで使用されているKEYPAD（キーパッド） 3.1すべてのLCDの上部に赤い **[MUTE]** の表示が点灯します。EZ-Padで制御されているゾーンでは、選択されているソースボタンが約1秒間に1回の割合で点滅します。
- **ボリュームノブを2秒以上押し続ける**と、**すべての**ゾーンプリアンプとスピーカーの音の**ミュートが解除**されます。システムで使用されているKEYPAD（キーパッド） 3.1すべてのLCDの上部で点灯している赤い **[MUTE]** の表示が消えます。EZ-Padで制御されているゾーンでは、選択されているソースボタンが常時点灯に変わります。

ソースに関する操作

DVD、CD、ケーブル放送、衛星放送、デジタルビデオレコーダー、サーバー他

1 **［MODE Main Menu］の画面で、スクロールホイールを回してソースを選択し、クリックボタンを押してソースの選択を確定します。**

選択したソースの名前が、LCDの上部に表示されます。選択したソースについてプログラム設定されているバーチャルボタンがLCDに表示されます（**図30**参照）。

2 **再生、一時停止、スキップなど、基本操作についてプログラム設定されているハードキーを押します。**

3 **スクロールホイールを回して、プログラム設定されているバーチャルボタンの機能を選択します。**

4 **クリックボタンを押して、手順3で反転表示にしたバーチャルボタンの機能を実行します。**

iPod

iPodのすべての機能（iPodの標準的なメニュー項目）は、標準ではバーチャルボタンに割り当てられています。一部の操作つまみは、プログラム設定によりハードキーに割り当てられている場合があります。

1 **スクロールホイールを回して、iPodを反転表示にします。**

2 **クリックボタンを押して、反転表示にしたiPodを選択します。**

図33　iPodメインメニュー

選択したiPodがLCDの上部に表示され、iPod Main MenuがLCDに表示されます（**図33**参照）。

3 **スクロールホイールを回して、iPodメニューの項目（［Playlists］、［Artists］、［Albums］など）を反転表示にします。**

4 **クリックボタンを押して、手順2で反転表示にしたメニュー項目を選択します。**

選択したメニュー項目が、LCDの上部に表示されます

5 **［Now Playing］画面が表示されるまで、手順3～4を繰り返します（図34参照）。**

図34　iPod再生画面

プログラム設定されている場合は、**[Play/Pause]** や **[Track Skip Fwd/Rev]** など、iPodの基本機能に対応する**ハードキーを押します。**
メニューボタンを押すと、**iPodメニューの1つ前の階層**に戻ります。

6 **メニューボタンを 1 秒以上押し続けると、MODEメインメニューに戻ります。**

ゾーンの設定（高音および低音）関する操作

MODEメインメニューで以下の操作を行います。

1	スクロールホイールを回して、[Zone Settings] を反転表示にします。
2	クリックボタンを押します。 [Zone Settings] メニューが表示されます。
3	スクロールホイールを回して、[Treble] または [Bass] を反転表示にします。
4	クリックボタンを押します 選択したパラメータが、LCDの上部に表示されます。
5	スクロールホイールを回して、[Treble] または [Bass] の強弱を調節します。
6	必要な変更が完了したら、クリックボタンを押して、設定内容を保存します。
7	メニューボタンを押すと、MODE メインメニューに戻ります。

キーパッドの設定

KEYPAD（キーパッド） 3.1メインメニューに［Keypad Settings］という項目があります。この項目では、［Button Intensity］、［LCD Intensity］、［Button Standby］、［LCD Standby］、［Beeper］、および［Theme］に関するキーパッドの動作と表示について、ユーザーが使いやすさに合わせて設定できます。これらの設定はキーパッド上でのみ調整することができ、いつでも変更することが可能です。調整はスクロールホイールとクリックボタンを使用して行います。

■ [Button Intensity]
ハードキーとスクロールホイールのバックライトの明るさを調節します。0～100%の間で1%きざみで調節できます。

■ [LCD Intensity]
LCDのバックライトの明るさを調節します。25%、50%、75%、100%から選択します。

■ [Standby Timeout]
ハードキーとLCDのバックライトの点灯時間を設定します。1秒から常時点灯の間で調節できます。

■ [Button Standby]
スタンバイ時におけるハードキーのバックライトの明るさを調節します。0～100%の間で1%きざみで調節できます。

■ [LCD Standby]
スタンバイ時におけるLCDのバックライトの明るさを調節します。OFF、25%、50%、75%、100%から選択します。。

■ [Beeper]
ボタンで操作したことを耳で確認するクリック音のONとOFFを切り替えます。

■ [Theme]
LCDに表示される情報の配色を選択します。

キーパッドの設定を変更するには、以下の手順を実行します。

1	KEYPAD（キーパッド） 3.1メインメニューの画面で、スクロールホイールとクリックボタンを使用して［Keypad Settings］を選択します。
2	スクロールホイールを使用して、変更する設定項目を反転表示します。[Zone Settings] メニューが表示されます。
3	クリックボタンを押して選択します。 選択した設定項目が、LCDの上部に表示されます。
4	スクロールホイールを使用して、選択した設定項目を希望の値に調節します。
5	クリックボタンを押して、調節した値を設定します。
6	変更したい設定項目について、手順2～5を繰り返して値を調節します。
7	設定の変更が完了したら、メニューボタンを押します。 「Zone Setup」というメッセージが表示されます。「Done」が1秒間点滅した後、最後に選択していたソースの表示に戻ります。

キーパッドのリセット

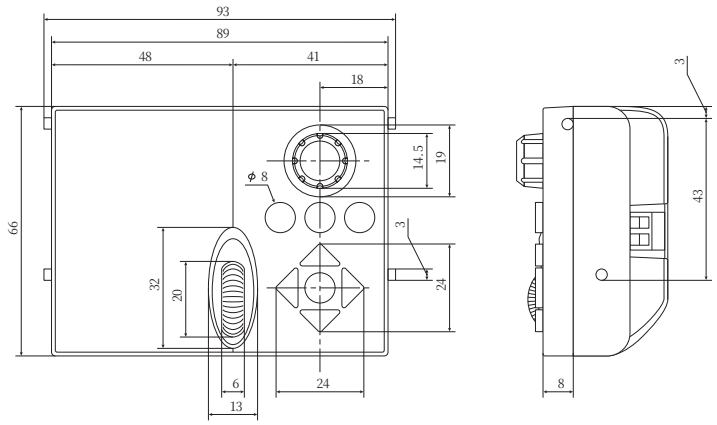
ある条件下でごくまれにKEYPAD（キーパッド） 3.1がロックアップすることがあります。キーパッドをリセットすることによって、キーパッドのロック状態が解除されます。リセット操作を行っても、EZ-Toolsによるプログラム設定、およびローカルゾーンやキーパッドの設定には影響ありません。キーパッドのロックを解除するには、以下の手順を実行します。

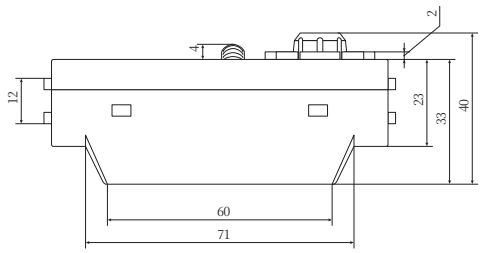
ボリュームノブを5秒間押し続けます。

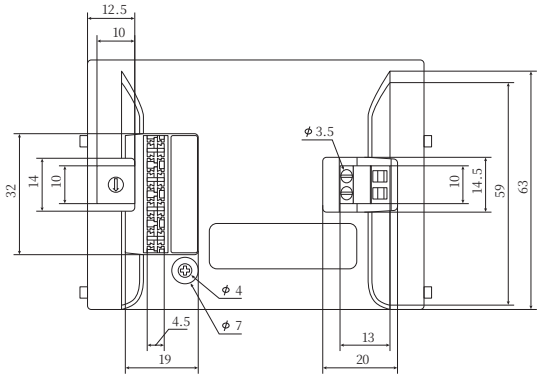
キーパッドが操作できる状態に戻ります。

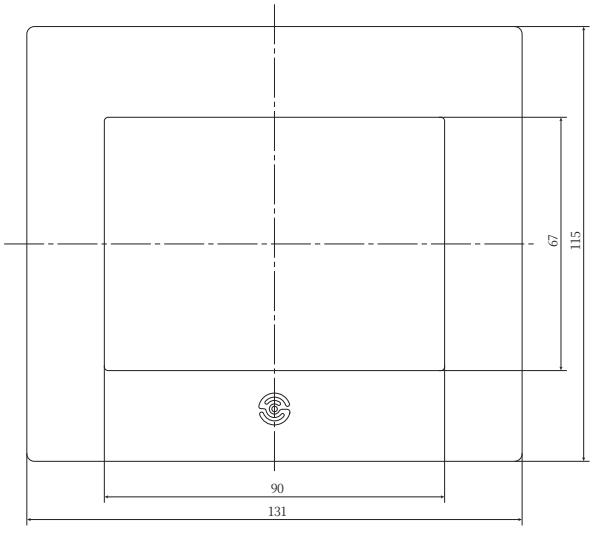
MODE 3.1 KEYPAD 取扱説明書／実測図

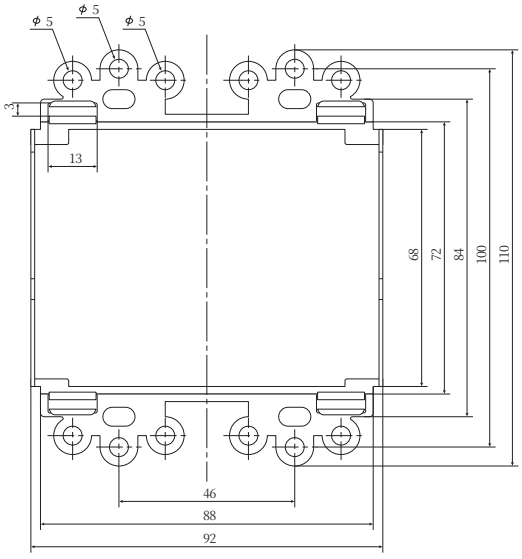
外形寸法：幅 9.21×高さ 6.67×奥行き 3.34㎝
重量： 0.1kg

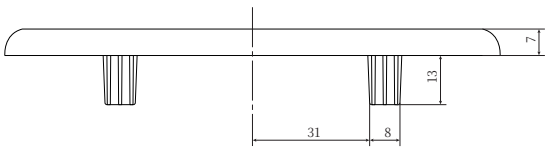


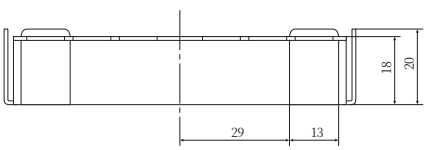






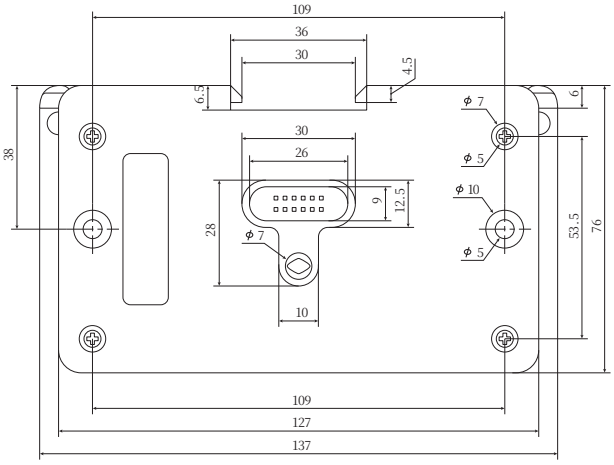


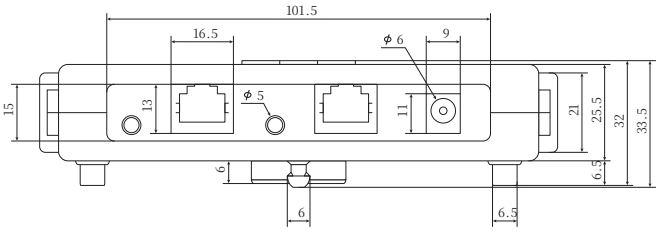


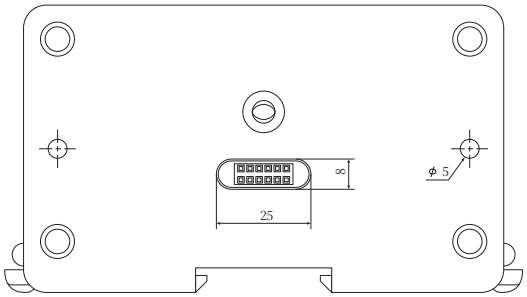


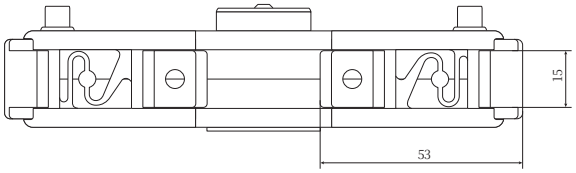
MODE ADAPTER 取扱説明書／実測図

外形寸法：幅 13.65×高さ 3.18×奥行き 7.62cm
重量： 0.2kg

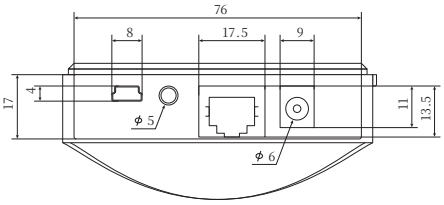


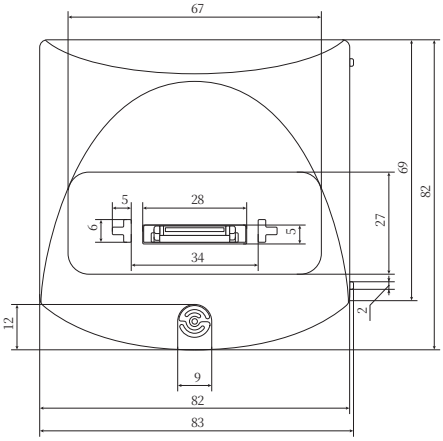


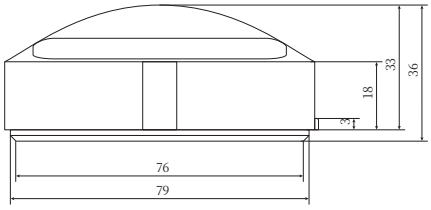


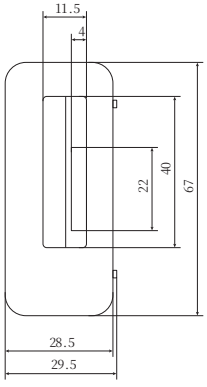


外形寸法：幅 8.26×高さ 3.65×奥行き 8.26cm
重量： 0.2kg

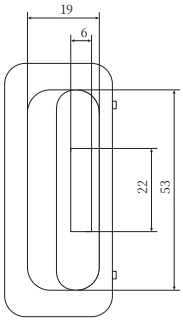




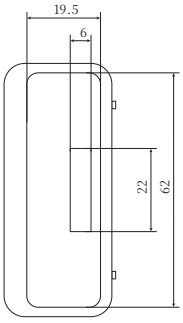




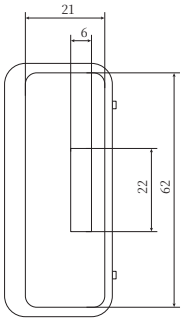
NANO



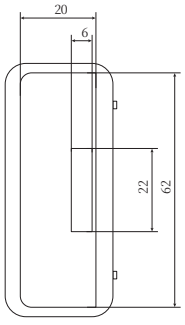
MINI



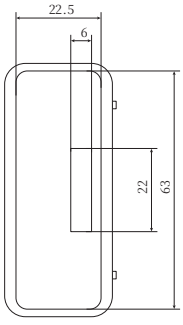
20G



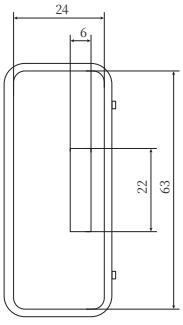
20-5G



60G



40G



40G-PH

仕様

MODE 3.1 KEYPAD

寸法	3 5/8"（幅）x 2 5/8"（高さ）x 1 5/16"（奥行き） [9.21 cm x 6.67 cm x 3.34 cm]
LCD	3.1インチ高解像度16ビットカラーLCD
ハードキー	バックライト付きプログラム設定可能キー×7個、メニューキー（専用）×1個
システム接続部	110型4ペアパンチダウン端子
アドレススイッチ	16ポジションロータリースイッチ
スピーカーミュートリレー	+12 VDC（17mA、EPR-1.0駆動時）
電源	12 VDC

MODE ADAPTER

寸法	5 3/8"（幅）x 1 1/4"（高さ）x 3"（奥行き） [13.65 cm x 3.18 cm x 7.62 cm]
音声出力	3.5mmステレオミニジャック
MZC拡張接続	RJ45ジャック
外部音声入力	3.5mmステレオミニジャック
MODEベース接続	RJ45ジャック
MODEアダプタバス	12ピン相互接続方式
電源	24 VDC

MODE BASE

寸法	3 1/4"（幅）x 1 7/16"（高さ）x 3 1/4"（奥行き）[8.26 cm x 3.65 cm x 8.26 cm]
MODEアダプタ接続	RJ45ジャック
外部音声入力	3.5mmステレオミニジャック
USB	USB Mini B
iPod接続	iPodドック標準コネクタ
電源	12 VDC

SpeakerCraft社製品ご相談・修理窓口のご案内

オンキヨーオーディオコールセンター

TEL：０５０−３１６１−９５５５（受付時間　１０：００〜１８：００）

（土、日、祝日、弊社の定める休業日を除きます。）

輸入販売元

オンキヨーマーケティングジャパン株式会社

東京都中央区八重洲 2-3-12　〒104-0028

Printed in Japan
D0701-1, 1102-1

SN 29344314A

29344374A